# 令和2年度 看護学部3学年シラバス

# <前期>

英語Ⅲ	$\cdots$ P 1 $\sim$ 7
英語IV	$\cdots$ P8 $\sim$ 13
感染看護学	$\cdots$ P14 $\sim$ 19
医療安全学	$\cdots$ P20 $\sim$ 25
急性期にある人の看護 I	$\cdots$ P 2 6 $\sim$ 3 3
急性期にある人の看護Ⅱ	$\cdots$ P34 $\sim$ 38
終末期にある人の看護	$\cdots$ P39 $\sim$ 45
在宅療養を支える看護	$\cdots$ P46 $\sim$ 51
地域看護学Ⅱ (地域看護援助技術)	$\cdots$ P52 $\sim$ 59
健康障害をもつ子どもの看護	$\cdots$ P60 $\sim$ 66
健康障害をもつ高齢者の看護Ⅱ	$\cdots$ P67 $\sim$ 73
精神の健康障害をもつ人の看護	$\cdots$ P74 $\sim$ 80
看護研究方法論とその活用	$\cdots$ P81 $\sim$ 87

# <後期>

助産学I	$\cdots$ P87 $\sim$ 93
助産学Ⅲ	$\cdots$ P 9 4 ∼ 1 0 0
急性期にある人の看護学実習	$\cdots$ P101~106
慢性疾患をもつ人への看護学実習	$\cdots$ P107~112
母性看護学実習	$\cdots$ P113~118
健康障害をもつ子どもへの看護学実習	$\cdots$ P119~124
精神の健康障害をもつ人への看護学実習	$\cdots$ P125~130

区分名: コミュニケーション

科目名: 英語3 (English III )

教員名: Tor Duffin (トア ダッフィン)

開講年次: 3年次 学期: 2020年度•前期 選択

授業形態:演習,単位数:1単位 ,時間数:30時間

#### 概要:

To help students to develop their overall English ability, whereby they can communicate at an intermediate level.

To give students the confidence to be able to use what skills they learn during the course for future travel or work purposes.

### 学習目標:

There are vocabulary and grammar sections in each lesson, but the emphasis will be on putting these elements into practice through a variety of listening and speaking activities.

In these activities, students will be encouraged to use the lesson's target structures and expressions to, amongst other things: share opinions and personal experiences; give short descriptions and explanations; make comparisons and suggestions.

		科目達成レベル					
	1. プロフェッショナル						
看護専	門職者をめざっ	十者と	して、それにふさわしい基本的な態度・姿勢 <i>の</i>	必要性	を理解し、行動		
できる	0						
		1	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ				
			れに基づき、考え、行動できる。		修得の機会が		
1)	看護倫理	意護倫理 ②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の	_	1000 100 100 100 100 100 100 100 100 10		
			意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		<i>7</i> 5.0 ·		
			ことができる。				
	習慣・服	(1)	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、				
	│	4	態度をとることができる。	_	修得の機会が		
[ 2 )	表 <sup>-</sup>	(2)	時間を厳守し、何事においても真摯に対応		ない		
<del>  領</del> 		<b>、</b> ②	し、積極性や誠実性を示すことができる。				

i	I	ı		1 1	
		3	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すこ		
			とができる。		
			  他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬		修得の機会が
3)	3) 対人関係	1	意を払って接することができる。	$\triangle$	あるが、単位認
					定に関係ない
		(1)	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守		
4)	法令等の規	•	り、人々のプライバシーを尊重できる。	_	修得の機会が
/	範遵守	(2)	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守		ない
		2	することができる。		
			2. 生涯学習		
看護専	門職者として個	憂れた	:洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連	の広い	分野の科学的情
報を収	集・評価し、詞	<b>扁理的</b>	思考の継続的改善を行うことができる。		
			看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献す		
		1	ることの重要性を理解できる。		
	(2		看護学に関する情報を、目的に合わせて効		
		2	率的に入手することができる。		
	± == == == 1		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評		15.75 o 186 o
1)	自己啓発と	(3)	価を行い、自身で責任を持って考え、行動	_	修得の機会
	自己鍛錬		できる。		がない
			自らのキャリアをデザインし、自己主導型		
			学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識		
		4	し、自ら必要な学習)により、常に自己の		
			向上を図ることができる。		
			3. 人間関係の理解とコミュニケーション		-
自己を	 内省する力を <b>활</b>	まうと	ともに、他者とのコミュニケーションを通して	 C、他者	 を理解し、互い
の立場	を尊重したより	りよい	人間関係を築くことができる。	<b>-</b>	
		(1)	人々の生命、健康、生活について幅広い関心		
		•	を持ち、深く洞察することができる。		基盤となる
	看護を必要	(2)	人々の社会的背景を理解して尊重すること		態度、スキ
	とする人々	2	ができる。		心を示せる
1)	とのコミュ	(3)	看護専門職者としてふさわしいコミュニケ	0	ことが単位
	ニケーショ	3	ーションスキルを身につけ、実践できる。		認定の要件
	ン		望ましい健康行動がとれるよう人々の意思		である
		4	決定を支援することができる。		(0)

	1	ı		i	1
		(1)	人々の健康を支えるチームの一員に看護の		
		(I)	立場から参加し、他職種と協働できる。		
			チーム医療におけるリーダーシップの意義		
		2	と看護専門職者が果たす役割について理解		
	チームでの		することができる。		佐須の機会
2)	コミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、	_	修得の機会
	ーション	3	誠実さを示し、看護専門職者としての責任		がない
			を果たす重要性を理解することができる。		
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療		
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する重		
			要性を理解することができる。		
	•	•	4 知識とその応用		•

### 4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説 明できる。(学部コースツリー参照)		
		1	感性を高める科目		模擬的な場
4)	豊かな感性 と倫理観を	2	倫理性を高める科目		に知識を応 用できるこ
1)	もつ看護専 門職者	3	論理的思考能力を高める科目	0	とが単位認 定の要件で
		4	表現力を培う科目		ある
		1	社会の理解を深める科目		
	創造性豊か	2	人間の理解を深める科目		
2)	な看護専門職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	_	修得の機会 がない
		4	看護の基本となる科目		
		(5)	看護実践の基盤となる科目		

•	ı			•	Ī	
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目			
3)	応する実践能力を備え	2	看護の実践	_	修得の機会 がない	
	た看護専門職者	3	看護を統合する科目			
	l	l	5. 看護の実践			
	生活するあらん ことができる。		において、あらゆる健康レベルの人々のニー	ズに基づ	いた看護を実	
2070			人々の健康レベルを、成長発達や日常生活			
		(1)	を取り巻く環境の観点で捉えることができ			
		•	る。			
			人々が活用できる地域の社会資源、保健・医			
	2	2	(2)	療・福祉制度や関係機関の機能と連携につ		
			いて説明できる。			
			人々の健康に関するニーズを明らかにする			
		(3)	ために、必要な情報を収集し、アセスメント			
			することができる。			
		_	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計			
		4	画することができる。			
	人々のニー		安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健			
1)	ズに基づい	(5)	康段階に応じた看護を実践できる。	_	修得の機会	
	た看護の実		看護の対象となる人々、保健医療福祉等の		がない	
	践	6	専門職と協働して、人々がその健康問題を			
			解決することを支援することができる。			
			看護実践を評価し、計画の修正を図ること			
		7	ができる。			
			地域の人々の健康問題の解決のために、既			
			存の社会資源の改善や新たな社会資源の開			
			発、フォーマル・インフォーマルなサービス			
		8	のネットワーク化、システム化の重要性を			
			説明できる。			

### 6. 地域社会への貢献

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

		地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況			
	14h t=t 0 1 5	1	を理解し、人々が抱える健康問題と関連す		
1)	地域の人々の生命と暮		る要因や生活背景について説明できる。	_	修得の機会
' /	らしを守る		人々とともに、安心して生活できる地域づ	_	がない
	, २८ <u>४</u> ५७	2	くりを考え、そのために協働する看護専門		
			職者の役割について説明できる。		
			福島でおこった大規模複合災害を学び、必		
		1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする		
			各種連携の実際を理解し、説明できる。		
2)	福島の災害	(3)	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的		修得の機会
2 )	から学ぶ	2	に学び、適切に説明できる。	_	がない
			放射線(および災害)に対する地域住民の不		
		3	安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコ		
			ミュニケーションについて説明できる。		

#### 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの 重要性を理解できる。

		1	看護実践を通して、看護学上の		
			課題を考えることができる。		枚担の機会
1)	科学的・論理的思考		科学的思考に基づいて看護学上	_	修得の機会
		2	の課題を解決することの重要性		かない
			を説明できる。		

テキスト: World English 2 (Second Edition); NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING / CENGAGE LEARNING.

その他 (メッセージ等): 集中授業ですので、最後まで履修するつもりがない学生は受講しない ことをおすすめします。

I'm looking forward to meeting you all. I'll be happy to answer any questions you have, so please don't hesitate to ask. Let's enjoy the course together!

回数	項目	内容(キーワード等)			
第1回	1A: Contrast general & current actions	Vocabulary: Geographical regions			
		Grammar: Simple present vs. present			
		continuous tense			
第2回	1C: Describe favourite dishes	V: Food staples			
		<b>G:</b> Simple past tense			
第3回	2A: Talk about personal experiences	V: Culture, communication, gestures			
		G: Present perfect tense			
第4回	2C: Use small talk to 'break the ice'	V: Starting a conversation			
		G: already; ever; never; yet			
第5回	3A: Describe your city or town	V: City life			
		<b>G</b> : Future with <i>will</i>			
第6回	3C: Discuss an action plan	<b>V:</b> Places on a map			
		G: Will + time clauses (before / after)			
第7回	4A: Discuss ways to stay healthy	V: Parts of the body			
		<b>G:</b> Comparatives, superlatives & equatives			
第8回	4C: Suggest helpful natural remedies	V: Everyday ailments			
	40. Suggest helpful flatural femeules	G: Infinitive of purpose			
第9回	5A: Talk about facing challenges	V: Physical & mental challenges			
	JA. Talk about facility challenges	<b>G:</b> Past continuous vs. simple past tense			
第 10 回	5C: Use <i>too/enough</i> to talk about abilities	V: Phrasal verbs			
	30. Use too enough to talk about abilities	<b>G:</b> enough; not enough; too + adjective			
第 11 回	6A: Talk about milestones in your life	V: Stages of life			
		<b>G:</b> Present perfect tense + for / since			
第 12 回	COURSE REVIEW / TEST				
第 13 回	6C: Use how questions to get more	V: Adjectives for age			
	information G: How + adjective / adverb				
第 14 回	7A: Explain how we get luxury items	V: Luxury / import / export items			
		<b>G:</b> Passive voice (present tense)			

第 15 回	7C: Discuss what makes life better	V: Past participles of irregular verbs
		<b>G</b> : Passive voice with <i>by</i>
第 16 回	8A: Use conditionals to talk about real	V: Describing animals
	situations	<b>G</b> : Real conditionals in the future
第 17 回	8C: Describe what animals do	V: Adverbs of manner
		<b>G</b> : Quantifiers
第 18 回	9A: Discuss life in the past	V: Life in the past
		<b>G</b> : Used to
第 19 回	9C: Compare today with the past	V: Separable phrasal verbs
		<b>G:</b> Passive voice in the past
第 20 回	10A. Talk about proporations for a trip	V: Travel preparations
	10A: Talk about preparations for a trip	<b>G</b> : Expressing necessity
第 21 回	40C. Has English at the aims at	V: At the airport
	10C: Use English at the airport	<b>G:</b> Expressing prohibition
第 22 回	11 A. Diaguas career chaines	V: Careers & jobs
	11A: Discuss career choices	<b>G</b> : Modals for giving advice
第 23 回	COURSE REVIEW / TEST	

区分名:表現力を培う

科目名 (英語名称含む): 英語 IV (English IV)

教員名:中山 仁

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度前期, 必修/選択:選択

授業形態:演習 , 単位数:1単位 , 時間数:30時間

概要:英語のパラグラフ・ライティングの基礎を習得するための演習を行う。具体的にはパラグラフの基本構造と典型的なライティングのプロセスを理解した上で、身近なテーマについて実際にパラグラフを書く演習を行う。

なお、下記の授業内容は使用テキスト、および、授業進度状況によって予定を変更することがあるが、基本的な履修内容に差異はない。また、必要に応じて英文法の基礎力を維持するための演習を行う。

学習目標: 1)英語のパラグラフと、日本語の段落との違いを説明できる。

- 2) 英語の文章をパラグラフ単位で正確に理解できる。
- 3) 論理展開が明確で、適切な英語表現を用いたパラグラフを書くことができる。
- 4) 必要な英語表現を効率よく調べたり、検索したりすることができる。
- 5)英語の句読法を正しく使える。

		科目達成レベル					
	1. プロフェッショナル						
看護専	門職者をめざ	す者	として、それにふさわしい基本的な態度・姿	勢の必	必要性を理解し、		
行動で	きる。						
		1	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。		佐祖 の柳 入ぶ		
1) 看護倫理	看護倫理	護倫理②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の 意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる ことができる。	_	修得の機会がない		
	邓伸,肥	1	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣 い、態度をとることができる。		修得の機会は		
習慣・服 2) 装・品位/ 礼儀	装・品位/	2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応 し、積極性や誠実性を示すことができる。	$\triangle$	あるが、単位 認定に関係な		
	3	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す ことができる。		V			

3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。		
4)	法令等の規 範遵守	① ②	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	_	修得の機会がない
	<u> </u>		2. 生涯学習		
			た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び 論理的思考の継続的改善を行うことができる		広い分野の科学
		1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。		
	自己啓発と 自己鍛錬	2	看護学に関する情報を、目的に合わせて 効率的に入手することができる。		修得の機会
1)		3	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 評価を行い、自身で責任を持って考え、 行動できる。	Δ	はあるが、 単位認定に
		4	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		関係ない
		,	3. 人間関係の理解とコミュニケーション		
	, , ,		とともに、他者とのコミュニケーションを通 りよい人間関係を築くことができる。	迫して、	他者を理解し、
		1	人々の生命、健康、生活について幅広い関 心を持ち、深く洞察することができる。		
	看護を必要 とする人々		人々の社会的背景を理解して尊重するこ とができる。		修得の機会はあるが、
1)	とのコミュニケーショ	3	看護専門職者としてふさわしいコミュニ ケーションスキルを身につけ、実践でき	$\triangle$	単位認定に
	V		る。		関係ない
		4	望ましい健康行動がとれるよう人々の意 思決定を支援することができる。		

		(1)	人々の健康を支えるチームの一員に看護		
		1)	の立場から参加し、他職種と協働できる。		
			チーム医療におけるリーダーシップの意		
		2	義と看護専門職者が果たす役割について		
	エンスの		理解することができる。		
2)	チームでのコミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信	_	修得の機会
2)	コミューク	(3)	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		がない
	_/_/_/	(3)	責任を果たす重要性を理解することがで		
			きる。		
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療		
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する		
			重要性を理解することができる。		
			4. 知識とその応用		
看護専	門職者の基盤	とな	る知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護	の実践に	応用できる。
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を		
			説明できる。 (学部コースツリー参照)		
		1	感性を高める科目		thall a
	豊かな感性	2	倫理性を高める科目		基礎となる知識を示せ
1)	と倫理観を もつ看護専			•	ることが単
	門職者	3	論理的思考能力を高める科目		位認定の要
	1 14畝7日				件である
		4	表現力を培う科目		
		1	社会の理解を深める科目		
		2	人間の理解を深める科目		基礎となる
	創造性豊か				知識を示せ
2)	な看護専門	3	人間の身体機能と病態を理解する科目		ることが単
	職者	4	看護の基本となる科目		位認定の要件である
		(5)	看護実践の基盤となる科目		

ĺ		ı		Ì	I
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目		
3)	応する実践 能力を備え	2	看護の実践	_	修得の機会 がない
	た看護専門職者	3	看護を統合する科目		
•			5. 看護の実践		
			場において、あらゆる健康レベルの人々のコ	ニーズに	甚づいた看護
を夫践	することがで	S S			
			人々の健康レベルを、成長発達や日常生活		
		1	を取り巻く環境の観点で捉えることがで		
			きる。		
			人々が活用できる地域の社会資源、保健・		
		2	医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に		
			ついて説明できる。		
			人々の健康に関するニーズを明らかにす		
		3	るために、必要な情報を収集し、アセスメ		
			ントすることができる。		
	人々のニー	_	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計		
	ズに基づい		画することができる。		佐油の機入
1)		(	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健	_	修得の機会
	た看護の実	₹   ⑤	康段階に応じた看護を実践できる。		がない
	践		看護の対象となる人々、保健医療福祉等の		
		6	専門職と協働して、人々がその健康問題を		
			解決することを支援することができる。		
			看護実践を評価し、計画の修正を図ること		
		7	ができる。		
			地域の人々の健康問題の解決のために、既		
			存の社会資源の改善や新たな社会資源の		
		8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー		
			ビスのネットワーク化、システム化の重要		
			性を説明できる。		
Į.					

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状 況を理解し、人々が抱える健康問題と関連 する要因や生活背景について説明できる。	^	修得の機会はあるが、
		2	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門 職者の役割について説明できる。		単位認定に関係ない
	福島の災害から学ぶ	1)	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。		修得の機会
2)		2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的 に学び、適切に説明できる。	Δ	はあるが、単位認定に
		3	放射線(および災害)に対する地域住民の 不安が理解でき、社会・地域住民とのリス クコミュニケーションについて説明でき る。		関係ない

#### 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

			看護実践を通して、看護学上の		実践の基盤
		(1)	課題を考えることができる。		となる知識
1)	科学的•論理的思考	2	科学的思考に基づいて看護学 上の課題を解決することの重 要性を説明できる。	•	を示せるこ とが単位認 定の要件で ある

テキスト: 教室で指示する。

参考書:『ウィズダム英和辞典』 (三省堂) 、『ジーニアス英和辞典』 (大修館)

Longman Dictionary of Contemporary English (Longman)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (Oxford University Press)

英辞郎 on the Web

成績評価方法:演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合

# して評価する。

その他(メッセージ等): 23回の授業を終了した時点で、少なくとも9つのセンテンスから成る1つのパラグラフを作り上げるスキルが段階的に身につくようになるプログラムです。論理的な話とは何かを理解すると、日本語表現にも応用できます。英語と日本語の「伝える力」を学ぶ数少ない機会になると思います。

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	イントロダクション	Formatting; Process writing
第2回	センテンスとパラグラフ(1)	Topic; Strong/Weak paragraph (1)
第3回	センテンスとパラグラフ(2)	Topic; Strong/Weak paragraph (2)
第4回	トピックとトピック・センテン	Topic sentence (1); Conjunctions
	ス(1)	
第5回	トピック・センテンス(2)	Topic sentence (2): Skills to improve topic
		sentences
第6回	サポート(1)	Supporting sentences (1) (Types)
第7回	サポート(2)	Supporting sentences (2) (Exercises)
第8回	結論	Concluding sentences; Capital letters
第9回	導入	Introductory sentences
第10回	プロセス・ライティング(1)	Process writing (1)
第11回	プロセス・ライティング(2)	Brainstorming; Word maps; Listing
第12回	プロセス・ライティング(3)	Organizing; Review; Editing
第13回	性格描写(1)	Adjectives to describe personalities
第 14 回	性格描写(2)	Paragraph writing exercise
第 15 回	推敲のためのスキル	Proof reading; Peer reviewing
第 16 回	因果関係(1)	Cause and effect (1)
第17回	サポート文を改善するスキル	Using English dictionaries
第 18 回	説明のためのパラグラフ	Enumeration
第 19 回	比較	Double listing to brainstorm
第 20 回	因果関係(2)	Cause and effect (2)
第 21 回	データの説明(1)	Describing data, figures and tables (1)
第 22 回	データの説明(2)	Describing data, figures and tables (2)
第 23 回	まとめ	Review Quiz

区分名:看護の基本となる科目

科目名 (英語名称含む): 感染看護学 ( Infectious Nursing Science )

教員名: 佐藤 博子

開講年次:3年次,学期:2020年度前期,必修/選択:必修

授業形態:講義 , 単位数:1 単位 , 時間数:15 時間

概要:看護専門職業人として働く場は、病院はもとより在宅看護、地域と様々であり質保証として感染看護学は重要である。種々の感染症が流行した場合に対応するための疫学的な視点も求められる。感染防止に関する基礎知識をもとに感染防止に必要な方策を学び、様々な状況に対応するための基盤となる考え方を培う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標:1) 感染看護学の重要性について説明できる。

- 2) 感染管理に関する基礎知識について説明できる。
- 3) 病院、施設における感染管理の実際について説明できる。
- 4) 様々な状況における感染防止の対策について説明できる。
- 5) 感染症対策の法的側面について学びグローバルな視点での感染対策について 説明できる。

		科目達成レベル							
	1. プロフェッショナル								
看護専	門職者をめざ	す者	として、それにふさわしい基本的な態度・姿	勢の必	必要性を理解し、				
行動で	きる。								
		(1)	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ						
	看護倫理	1	れに基づき、考え、行動できる。		羽担の地合が				
1)		2	生命の尊厳や人権について理解し、人々の	—	習得の機会が				
			意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		/4 / '°				
			ことができる。						
		(1)	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣						
	習慣・服	1)	い、態度をとることができる。		習得の機会が				
2)	音順・M   装・品位/	2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応	^	あるが、単位				
2)	表 品位/   礼儀	(2)	し、積極性や誠実性を示すことができる。	Δ	認定に関係な				
	1.□ 卧室	(3)	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す		٧٠ <sub>°</sub>				
		0	ことができる。						

3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。		習得の機会が あるが、単位 認定に関係ない。
4)	法令等の規 範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		II
			2. 生涯学習		
			た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び 論理的思考の継続的改善を行うことができる		広い分野の科学
	自己啓発と 自己鍛錬	1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。		
		2	看護学に関する情報を、目的に合わせて 効率的に入手することができる。		習得の機会があるが、単位認定に
1)		3	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 評価を行い、自身で責任を持って考え、 行動できる。	Δ	
		4	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		関係ない。
			3. 人間関係の理解とコミュニケーション		
	, , ,		とともに、他者とのコミュニケーションを通 りよい人間関係を築くことができる。	迫して、	他者を理解し、
		1)	人々の生命、健康、生活について幅広い関 心を持ち、深く洞察することができる。		
	看護を必要 とする人々		人々の社会的背景を理解して尊重するこ とができる。		習得の機会があるが、
1)	とのコミュニケーショ	3	看護専門職者としてふさわしいコミュニ ケーションスキルを身につけ、実践でき	Δ	単位認定に
	ン		る。		関係ない。
		4	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

	_	_		_	
		(1)	人々の健康を支えるチームの一員に看護		
			の立場から参加し、他職種と協働できる。		
		2	チーム医療におけるリーダーシップの意		態度、習
チー			義と看護専門職者が果たす役割について		慣、価値観
	チームでの		理解することができる。		を模擬的に
2)	コミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信		示せること
	ーション	3	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての	0	が単位認定
			責任を果たす重要性を理解することがで		の要件であ
			きる。		る。
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療		
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する		
			重要性を理解することができる。		
			4. 知識とその応用		
看護専	門職者の基盤	とな	る知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護	の実践に	応用できる。
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を		
			説明できる。 (学部コースツリー参照)		
		1	感性を高める科目		
1)	豊かな感性と倫理観を	2	倫理性を高める科目	_	習得の機会 があるが、
1)	もつ看護専 門職者	3	論理的思考能力を高める科目		単位認定に関係ない。
		4	表現力を培う科目		
		1	社会の理解を深める科目		
	会に生み、	2	人間の理解を深める科目		態度、習慣、 価値観を模
2)	創造性豊か な看護専門 職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	0	擬的に示せ ることが単
	14以7日	4	看護の基本となる科目		位認定の要 件である。
		(5)	看護実践の基盤となる科目		

	1	1		1	1
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目		
3)	応する実践能力を備え	2	看護の実践	_	習得の機会がない
	た看護専門職者	3	看護を統合する科目		
		•	5. 看護の実践		
人々が	生活するあら	ゆる	場において、あらゆる健康レベルの人々のお	ニーズに	基づいた看護
を実践	することがで	きる	0		
			人々の健康レベルを、成長発達や日常生活		
		1	を取り巻く環境の観点で捉えることがで		
			きる。		
			人々が活用できる地域の社会資源、保健・		
		2	医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に		
			ついて説明できる。		
			人々の健康に関するニーズを明らかにす		
		3	るために、必要な情報を収集し、アセスメ		
			ントすることができる。		
	人々のニー		健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計		翌得の機会
	ズに基づい		画することができる。		習得の機会
1)	た看護の実	(5)	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健	$\triangle$	単位認定に
	践	0	康段階に応じた看護を実践できる。		関係ない。
			看護の対象となる人々、保健医療福祉等の		
		6	専門職と協働して、人々がその健康問題を		
			解決することを支援することができる。		
		(7)	看護実践を評価し、計画の修正を図ること		
			ができる。		
			地域の人々の健康問題の解決のために、既		
			存の社会資源の改善や新たな社会資源の		
		8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー		
			ビスのネットワーク化、システム化の重要		
			性を説明できる。		
			6. 地域社会への貢献		

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

			地域の特性やそこで暮らす人々の生活状		態度、習慣、
	地域の人々	1	況を理解し、人々が抱える健康問題と関連		価値観を模
1)	の生命と暮		する要因や生活背景について説明できる。		擬的に示せ
1)	らしを守る		人々とともに、安心して生活できる地域づ	O	ることが単
	りしをする	2	くりを考え、そのために協働する看護専門		位認定の要
			職者の役割について説明できる。		件である。
		1)	福島でおこった大規模複合災害を学び、必		
			要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす		
			る各種連携の実際を理解し、説明できる。		
	福島の災害	2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的	_	習得の機会
2)	から学ぶ		に学び、適切に説明できる。		がない
	かり子ぶ		放射線(および災害)に対する地域住民の		N-17 1
		3	不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		
			クコミュニケーションについて説明でき		
			る。		

### 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

			看護実践を通して、看護学上の		
		(1)	課題を考えることができる。		羽伊の機会
1)	科学的・論理的思考		科学的思考に基づいて看護学	_	習得の機会
		2	上の課題を解決することの重		N317 1
			要性を説明できる。		

テキスト: 指定しない

参考書: 講義内で提示する

成績評価方法:授業への参加度とレポート、試験により評価する。

その他 (メッセージ等): 看護の専門性と感染看護についての理解を深め、専門職として

基盤となる感染防止に対する知識と行動が行えるように学んでいきましょう。

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	感染看護とは	感染看護学の位置づけと学びの目的
		職業感染防止への対応
第2回	感染対策	1) スタンダードプリコーション
第3回	感染防止の基礎知識と看護技	2) 感染経路別予防対策を隔離法
第4回	術	3) 手洗い
第5回		4) 防護用具
		5) 洗浄·消毒·滅菌
		6) 検体の取り扱い
第7回	薬剤耐性菌の基礎と感染管理	感染症の原因となる様々な微生物と病院施設で
		の取り組み
第8回	医療施設における感染管理の	病院における感染対策チーム (ICT) および感染
	実際 (1)	管理認定看護師 (ICN) の活動
第9回	医療施設における感染管理の	医療施設における感染対策の事例
	実際 (2)	
第10回	様々な状況における感染状況	訪問看護における感染対策の事例
	と対策	
第11回	感染と看護ケア	差別と偏見
	公衆衛生における感染症対策	世界の感染症とパンデミック対策
第 12 回	まとめ	感染管理の現状と課題

区分名:看護の基本となる科目

科目名 (英語名称含む): 医療安全学 (Medical safety science )

教員名: 木下美佐子

開講年次:3年次,学 期:2020年度 前期 ,必修/選択:必修 授業形態:講義 ,単位数:1単位 ,時間数:15時間(60 分 $\times$ 12回)

概要: 医療の質を高めるために欠かせないのが医療安全の確保である。医療事故の種類や構造、ヒューマンエラー発生のメカニズムについて事例を通して読み解き、医療事故を防止するための基本的な考え方を学ぶ。さらに医療安全に向けた組織的な取り組みを理解し、多職種連携の必要性へ理解を深める。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標:医療安全を確保するために、医療事故発生の種類や構造・ヒューマンエラーを学び、 事故防止していくために必要な基本的な考え方を修得する。

### 行動目標

- 1. 医療安全を学ぶ医療事故の定義と事故発生の要因、構造がわかる。
- 2. 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーが理解できる。
- 3. 医療事故に関する法的な責任を理解する。
- 4. 医療事故防止のための方法、組織的な事故防止対策がわかる。
- 5. 多職種が連携した医療安全について考えることができる。

		科目達成レベル					
	1. プロフェッショナル						
看護専	門職者をめざ	す者	として、それにふさわしい基本的な態度・姿	勢の必	必要性を理解し、行動で		
きる。							
1)	看護倫理	① ②	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	0	態度、習慣、価値観 を模擬的に示せるこ とが単位認定の要件 である		
2)	習慣・服 装・品位/ 礼儀	① ②	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	0	態度、習慣、価値観 を模擬的に示せるこ とが単位認定の要件 である		

		3	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す ことができる。		
3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。	0	態度、習慣、価値観を 模擬的に示せること が単位認定の要件で ある
4)	法令等の規 範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	0	態度、習慣、価値観を 模擬的に示せること が単位認定の要件で ある
	<u>I</u>		2. 生涯学習		
			た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関 考の継続的改善を行うことができる。	連の広	い分野の科学的情報を
		1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。		
		(3)	看護学に関する情報を、目的に合わせて 効率的に入手することができる。 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己	0	態度、習慣、価値
1)	自己啓発と 自己鍛錬		評価を行い、自身で責任を持って考え、 行動できる。		観を模擬的に示せ ることが単位認定 の要件である
			自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		の女件である
	1		3. 人間関係の理解とコミュニケーション	\ '/	
				<b>して、</b>	他者を理解し、互いの
	看護を必要とする人々	① ②	人々の生命、健康、生活について幅広い関 心を持ち、深く洞察することができる。 人々の社会的背景を理解して尊重するこ		実践の基盤となる知識を示せること
1)	1) とのコミュ ニケーショ ン	3	とができる。 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		が単位認定の要件である

			望ましい健康行動がとれるよう人々の意		
		4	思決定を支援することができる。		
		1	人々の健康を支えるチームの一員に看護 の立場から参加し、他職種と協働できる。		
	チームでの コミュニケ ーション	2	チーム医療におけるリーダーシップの意 義と看護専門職者が果たす役割について 理解することができる。		基盤となる態度、
2)		3	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての 責任を果たす重要性を理解することができる。	0	スキルを示せるこ とが単位認定の要 件である
		4	人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)		
		1	感性を高める科目		
1)	豊かな感性 と倫理観を	2	倫理性を高める科目		模擬的な場に知識 を応用できること が単位認定の要件 である
1)	もつ看護専門職者	3	論理的思考能力を高める科目		
		4	表現力を培う科目		
		1	社会の理解を深める科目		実践の基盤となる 知識を示せること が単位認定の要件 である
2)	創造性豊か	2	人間の理解を深める科目		
4)	な看護専門職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		4	看護の基本となる科目		

Ī	I	ı		Ī	]		
		5	看護実践の基盤となる科目				
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目		模擬的な場に知識		
3)	応する実践能力を備え	2	看護の実践	0	を応用できること が単位認定の要件		
	た看護専門職者	3	看護を統合する科目		である		
			5. 看護の実践				
人々が	生活するあら	ゆる	場において、あらゆる健康レベルの人々のニ	ーズに基	づいた看護を実践す		
ること	ができる。						
			人々の健康レベルを、成長発達や日常生活				
		1	を取り巻く環境の観点で捉えることがで				
					きる。		
			人々が活用できる地域の社会資源、保健・				
		2	医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に				
			ついて説明できる。				
			人々の健康に関するニーズを明らかにす				
		3	るために、必要な情報を収集し、アセスメ				
			ントすることができる。				
	1 2 0 -		健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計		<b>生性の甘酔しわて</b>		
	人々のニー		画することができる。		実践の基盤となる		
1)	ズに基づい た看護の実	(5)	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健	•	知識を示せることが異なるまで		
	に有護の美   践	(3)	康段階に応じた看護を実践できる。		が単位認定の要件である		
			看護の対象となる人々、保健医療福祉等の				
		6	専門職と協働して、人々がその健康問題を				
			解決することを支援することができる。				
		(7)	看護実践を評価し、計画の修正を図ること				
		()	ができる。				
			地域の人々の健康問題の解決のために、既				
			存の社会資源の改善や新たな社会資源の				
		8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー				
			ビスのネットワーク化、システム化の重要				
			性を説明できる。				

# 6. 地域社会への貢献

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1) の生命と	地域の人々の生命と暮	1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連 する要因や生活背景について説明できる。	_	取得の機会がない	
	らしを守る	2	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門 職者の役割について説明できる。			
		1)	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。			
2)	福島の災害から学ぶ	2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的 に学び、適切に説明できる。	_	修得の機会がない	
	۷ ک ۱ ک	3	放射線(および災害)に対する地域住民の 不安が理解でき、社会・地域住民とのリス クコミュニケーションについて説明でき る。			

#### 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重 要性を理解できる。

	,		1		
		1	看護実践を通して、看護学上の		実践の基盤となる
		(1)	課題を考えることができる。		知識を示せること
1)	科学的・論理的思考		科学的思考に基づいて看護学	•	が単位認定の要件
		2	上の課題を解決することの重		である
			要性を説明できる。		

テキスト:指定しない

参考書:河野龍太郎著:医療におけるヒューマンエラー第2版 医学書院

川村治子著:医療安全ワークブック第4版、医学書院

成績評価方法:筆記試験、出席状況、参加態度、レポートを総合して評価する

その他(メッセージ等): 実際におきた医療事故、看護事故の事例をもとに、医療事故防止に必要な基礎的な知識を学びます。福島県立医科大学医学部附属病院医療安全管理部発行(2020年版)「医療安全ポケットマニュアル」を授業で使います毎回持参のこと。

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	医療安全を学ぶ意義	医療安全とは、医療安全の歴史
第2回	医療事故について	医療事故の定義、インシデント報告
第3回	医療事故発生の構造(1)	医療事故発生のメカニズム
第4回	医療事故発生の構造 (2)	医療事故の分析
第5回	ヒューマンエラー(1)	ヒューマンエラーとは何か
第6回	ヒューマンエラー (2)	ヒューマンエラーと安全
第7回	医療事故防止対策(1)	環境への働きかけ
第8回	医療事故防止対策 (2)	KYT・医療安全研修
第9回	医療安全とチーム	ノンテクニカルスキルとチーム STEPPS
第 10 回	医療安全と法的責任	医療安全に関連した法律について
第11回	組織的な事故防止対策(1)	組織的な医療安全
第 12 回	組織的な事故防止対策(2)	リスクマネージャーの役割

区分名:看護実践の基盤となる科目

科目名 (英語名称含む): 急性期にある人の看護 I (Adult Nursing(Acute))

教員名:片桐和子、佐藤菜保子、菅野久美、脇屋友美子

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度前期, 必修/選択: 必修選択

授業形態:講義演習, 単位数:2単位, 時間数:45時間

概要:急性期にある対象の特徴と看護師の役割を踏まえ、手術療法を受ける対象の周術期看護について学ぶ。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

一般目標:手術や疾患による健康状態の急激な変化がある人とその家族の身体的・心理的・ 社会的・スピリチュアル的側面への影響を踏まえ、健康の早期回復と保持・増進を促す援助 について理解し、看護の実際について体験学習する。

#### 行動目標:

- 1. 急性期・周術期看護の特徴について述べることができる。
- 2. 麻酔や手術による生体への侵襲について述べることができる。
- 3. 手術を受ける人とその家族の身体・精神・社会・スピリチュアル的側面への影響について述べることができる。
- 4. 手術室看護の役割について述べることができる。
- 5. 手術を受ける人とその家族の特徴を踏まえ、その人の機能回復・合併症予防・苦痛緩和、 及び、家族を含めた心理・社会的支援のために必要な援助について述べることができる
- 6. ドレーン管理、術直後の観察の実技演習を通して、根拠を踏まえて必要な援助技術を行い、自己の体験を振り返ることができる。
- 7. 手術や麻酔による侵襲を受けた人の事例のグループワークを通して、必要なケアプランを考え、その一貫性・妥当性・具体性について検討しあい、看護に必要な基本的な知識を整理できる。

学習アウトカム					科目達成レベル		
	1. プロフェッショナル						
看護専	看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、						
行動で	行動できる。						
1)	看護倫理		生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、		態度、習慣、		
	有碳価理	(1)	れに基づき、考え、行動できる。		価値観を模擬		

		2	生命の尊厳や人権について理解し、人々の 意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる ことができる。		的に示せるこ とが単位認定 の要件であ る。	
2)	習慣・服 装・品位/ 礼儀	① ② ③	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	0	同上	
3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。	0	同上	
4)	法令等の規 範遵守	① ②	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守 することができる。	0	同上	
	<u> </u>	<u> </u>	2. 生涯学習			
			た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び 論理的思考の継続的改善を行うことができる		広い分野の科学	
		1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。			
		2	看護学に関する情報を、目的に合わせて 効率的に入手することができる。		修得の機会	
1)	自己啓発と 自己鍛錬	3	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 評価を行い、自身で責任を持って考え、 行動できる。	Δ	があるが、 単位認定に 関係ない	
		4	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		対係ない	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション						
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。						
1)	看護を必要 とする人々	1	人々の生命、健康、生活について幅広い関 心を持ち、深く洞察することができる。	0	基礎となる態度、ス	

	1,073	ĺ	1 4 の社会的北見た研知して前手中ファ		キルを示せ	
	とのコミュ	2	人々の社会的背景を理解して尊重するこ			
	ニケーショ		とができる。		ることが単	
	$\sim$		看護専門職者としてふさわしいコミュニ		位認定の要	
		3	ケーションスキルを身につけ、実践でき		件である	
			る。			
			望ましい健康行動がとれるよう人々の意			
		4)	思決定を支援することができる。			
		(1)	人々の健康を支えるチームの一員に看護			
			の立場から参加し、他職種と協働できる。			
		2	チーム医療におけるリーダーシップの意			
			義と看護専門職者が果たす役割について			
	T. 150		理解することができる。			
2)	チームでのコミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信	$\circ$		
2)	コミューク	(3)	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		同上	
	-V3V	(3)	責任を果たす重要性を理解することがで			
			きる。			
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療			
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する			
			重要性を理解することができる。			
4. 知識とその応用						
 看護博	専門職者の基盤	とな	る知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護	の実践に	応用できる。	
		\				

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)				
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	1	感性を高める科目		模擬的な		
			$\overline{2}$	2	倫理性を高める科目		場に知識を 応用できる
		3	論理的思考能力を高める科目		ことが単位 認定の要件		
		4	表現力を培う科目		である。		
2)		1	社会の理解を深める科目	0	同上		

_	•			•	
	創造性豊かな看護専門職者	2	人間の理解を深める科目		
		3	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		4	看護の基本となる科目		
		(5)	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目		
3)	応する実践 能力を備え た看護専門 職者	2	看護の実践	0	同上
		3	看護を統合する科目		
		I	5. 看護の実践		
	生活するあらすることがで		場において、あらゆる健康レベルの人々のコ	ニーズに碁	基づいた看護
	人々のニー ズに基づい た看護の実 践	1)	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。		
		2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		模擬的な場 に知識を応 用できるこ
1)		4	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		とが単位認定の要件で
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		ある。
		6	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		7	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		

			地域	の人	マの健康問題の解決のために、既		
			存の	社会	資源の改善や新たな社会資源の		
		8	開発	、フォ	ーーマル・インフォーマルなサー		
			ビス	のネッ	ットワーク化、システム化の重要		
			性を	説明~	できる。		
				6	. 地域社会への貢献		
(1)	地域の特性を	理解し	八人	々が信	 注み慣れた地域や家庭で安心して	生活でき	 るよう、看護
専門聙	機者としての役	割を見	果たす	こと	ができる。		
(2)	福島での大規	模複合	災害	から、	、災害時に必要となる種々の連携	について	学び、説明で
きる。							
			地域	の特	生やそこで暮らす人々の生活状		
	tot I b	1	況を	理解〕	_、人々が抱える健康問題と関連		
	地域の人々		する	要因々	や生活背景について説明できる。		修得の機会
1)	の生命と暮らしを守る		人々	ととす		ーがな	がない
		2	くりを考え、そのために協働する看護専門				
			職者の役割について説明できる。				
			福島	でおこ	こった大規模複合災害を学び、必		
		1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす			_	修得の機
			る各種連携の実際を理解し、説明できる。				
	[ - # - W +		放射線災害の実際を知り、放射線を科学的				
2)	福島の災害	2	に学び、適切に説明できる。				
	から学ぶ		放射	線(お	よび災害) に対する地域住民の	-	会がない
			不安	不安が理解でき、社会・地域住民とのリス			
		3	クコ	ミュニ	ニケーションについて説明でき		
			る。				
	•			7.	看護学発展への貢献		
看護学	 <sup>ど</sup> 領域での研究	の意	<u>美</u> や、	科学	ー 的・論理的思考に基づいて看護誓	学上の課題	 夏を解決する
	)重要性を理解						
					看護実践を通して、看護学上の		
			(	1	課題を考えることができる。		
1)	科学的・論理	里的思	思考 科学的思考に基づいて看護学		<u> </u>	修得の機	
•	1	-				会がない	

テキスト:特に指定しない。

要性を説明できる。

上の課題を解決することの重

2

会がない

参考書: 授業時に提示する。

成績評価方法:講義・演習への参加度、課題提出物、出席状況、定期試験結果により評価する。

その他(メッセージ等): 1、2年次で学習した内容を基盤に、発展させていく授業展開となります。しっかり学んだことを復習して臨んでください。また、演習に向けて課題を提示しますので、事前学習を踏まえて演習に臨んでください。

3年後期の実習に繋がる重要な科目になります。疑問点など質問したり、文献を通して理解 を深め、主体的に学習していく習慣を確立していくことが大切になります。

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	急性期の概念、急性期	急性期にある患者・家族の特徴と看護師の役割
	の特徴	
第2回	周術期の看護:術前	手術を受ける患者・家族の特徴、術前看護、
		周術期オリエンテーション、周術期リハビリテーシ
		ョン
第3回	周術期の看護:術前	術前アセスメント
第4回	手術と麻酔の侵襲	侵襲、手術や麻酔の侵襲による神経・内分泌・代謝
		反応、サードスペース、サイトカインによる生体反
		応、SIRS、Moore の回復過程、
第5回	手術と麻酔の侵襲	侵襲、手術や麻酔の侵襲による神経・内分泌・代謝
		反応、サードスペース、サイトカインによる生体反
		応、SIRS、Moore の回復過程、
第6回	周術期の看護: 術中	手術室看護師の役割、術前訪問、手術室環境管理、
		消毒法、術中体位、体温管理など
第7回	周術期の看護: 術中	全身麻酔、局所麻酔、麻酔を受ける人の看護
第8回	周術期の看護:術後	術後の患者・家族の特徴、術後の機能回復・合併症
		予防(後出血とショック)
第9回	周術期の看護:術後	術後の機能回復・合併症予防(縫合不全、深部静脈
		血栓症、呼吸器合併症など)、苦痛緩和、心理・社会
		的支援
第10回	周術期の看護:術後	術後の患者・家族の特徴、術後の機能回復・合併症
		予防、苦痛緩和、心理・社会的支援
第11回	手術により健康状態が	肺切除術を受ける人の看護:開胸術により呼吸機能
	急激に変化する人の看	が変化する患者及び家族の特徴、気道の清浄化、呼
	護(1)	吸機能の維持・改善のための援助、ドレナージ、肩

		関節硬縮予防
第12回	急激に変化する人の看	肺切除術を受ける人の看護:開胸術により呼吸機能
	護 (1)	   が変化する患者及び家族の特徴、気道の清浄化、呼
		   吸機能の維持・改善のための援助、ドレナージ、肩
		関節硬縮予防
第13回	急激に変化する人の看	肺切除術を受ける人の看護: 開胸術により呼吸機能
	護 (1)	が変化する患者及び家族の特徴、気道の清浄化、呼
		吸機能の維持・改善のための援助、ドレナージ、肩
		関節硬縮予防
第14回	手術により健康状態が	胃切除術を受ける人の看護:摂取機能の低下に対す
	急激に変化する人の看	る援助、ダンピング症候群の予防と対処、縫合不全
	護 (2)	の早期発見と対処、食スタイルの変化に伴う辛さ・
		食の楽しみを考慮した援助
第15回	手術により健康状態が	胃切除術を受ける人の看護:摂取機能の低下に対す
	急激に変化する人の看	る援助、ダンピング症候群の予防と対処、縫合不全
	護 (2)	の早期発見と対処、食スタイルの変化に伴う辛さ・
		食の楽しみを考慮した援助
第16回	手術により健康状態が	胃切除術を受ける人の看護:摂取機能の低下に対す
	急激に変化する人の看	る援助、ダンピング症候群の予防と対処、縫合不全
	護 (2)	の早期発見と対処、食スタイルの変化に伴う辛さ・
		食の楽しみを考慮した援助
第17回	手術により健康状態が	大腸切除術を受ける人の看護:排泄に伴う羞恥心や
	急激に変化する人の看	自尊心、性機能障害を考慮した援助、イレウス予防・
	護 (3)	改善のための援助、ストマケア
第18回	手術により健康状態が	乳房切除術を受ける人の看護:上肢リンパ浮腫予
	急激に変化する人の看	防・緩和、関節可動域障害の予防、ボディイメージ
	護 (4)	の変容に対する援助、セクシュアリティに関する援
		助
第19回	手術により健康状態が	手術体験者の語り
	急激に変化する人の看	入院中に看護師に依頼したいこと、退院後の生活上
	護 (4)	の困難点、がんサバイバー、
第20回	術後ドレーンを挿入し	ドレーンの目的・方法・種類、ドレーンを挿入して
	ている人の看護	いる人の特徴及び援助
第21回	周術期の看護:演習	術後患者のアセスメント
	(2)	
第22回	周術期の看護:演習	術後患者のアセスメント

	(2)	
第23回	周術期の看護:演習	術後患者のアセスメント
	(2)	
第24回	周術期の看護:演習	ドレーン管理の実際
	(3)	
第25回	周術期の看護:演習	ドレーン管理の実際
	(3)	
第26回	周術期の看護:演習	ドレーン管理の実際
	(3)	
第27回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
	(4)	
第28回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
	(4)	
第29回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
	(4)	
第30回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
	(4)	
第31回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
*** a a ==	(4)	HILITIA (C )
第32回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
# 0 0 1	(4)	
第33回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
<b>答</b> 9.4回	(4)	中国収象のトーフフルゴ・
第34回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
<b>第25</b> 同	(4)	中国12分のトーフフルブ・
第35回	周術期の看護:演習	肺切除後のケーススタディ
	(4)	

区分名: 看護実践の基盤となる科目

科目名 (英語名称含む):急性期にある人の看護 II (Critical Care and Emergency Nursing )

教員名: 菅野久美・佐藤菜保子・脇屋友美子・片桐和子

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度 前期 , 必修/選択: 必修

授業形態:講義,単位数:1単位 ,時間数:12時間

#### 概要:

救急医療における対象の特徴と看護の役割について学習するとともに、フィジカルアセス メントや救急処置などの基本的知識や技術を修得し、生きる(生命と生活)を支える救急看 護について考えを深める。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

#### (一般目標)

- 1. 救急患者および生命の危機状況にある人やその家族の体験を理解する。
- 2. 救急医療体制の変遷と現状を学習し、看護の役割を理解する。
- 3. フィジカルアセスメントやファーストエイドなどの基本的知識や技術、態度について学習する。
- 4. 救急医療および看護の場面での課題を学習する。

#### (行動目標)

- 1. 救急医療の現状とその問題を説明できる。
- 2. 救急患者および生命の危機状況にある患者とその家族の特徴を説明できる。
- 3. ファーストエイドとしての一次救命処置: Basic Life Support (BLS) や応急手当てについてその技術を習得できる。
- 4. 災害時の救急医療およびトリアージの基本的な考え方について説明できる。
- 5. 救急医療および看護の場面における課題について関心持ち、自己の考えを深めて その内容を述べることができる。

学習アウトカム					科目達成レベル			
	1. プロフェッショナル							
看護専門	看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。							
1)	看護倫理	1)	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。		態度、習慣、価値 観を模擬的に示			
		2	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決 定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	0	せることが単位 認定の要件であ る。			
2)	習慣・服装・ 品位/礼儀	1	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態 度をとることができる。	0	同上			

		2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積 極性や誠実性を示すことができる。		
		3	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことが できる。		
3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	0	同上
	法令等の規範	1	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々 のプライバシーを尊重できる。		
4)	遵守	2	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守するこ とができる。	0	同上
	1		2. 生涯学習		
			察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野 善を行うことができる。	野の科学	的情報を収集・評
		1	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献すること の重要性を理解できる。		
		2	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に 入手することができる。		修得の機会が
1)	自己啓発と自   己鍛錬	3	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	Δ	あるが、単位 認定に関係な い
		4	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習 (自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		
		1	3. 人間関係の理解とコミュニケーション		
	内省する力を養う よりよい人間関係		もに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を くことができる。	を理解し	、互いの立場を尊
	看護を必要と する人々との コミュニケー ション	1	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持 ち、深く洞察することができる。	0	
- )		2	人々の社会的背景を理解して尊重することができ る。		態度、習慣、価値観を模擬的
1)		3	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーショ ンスキルを身につけ、実践できる。		に示せること が単位認定の 要件である。
		4	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を 支援することができる。		
2)	チームでのコ ミュニケーシ ョン	1	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	Δ	実践の基盤と なる知識と技 術を統合させ
		2	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護 専門職者が果たす役割について理解することがで きる。		た実践の修得 の機会があ
		3	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠 実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす 重要性を理解することができる。		<u>る。</u>
		4	上のでは、 大々に必要な看護が継続されるよう、医療チーム メンバーに適切に情報を提供する重要性を理解す		

#### 4. 知識とその応用 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明でき る。(学部コースツリー参照) (1) 感性を高める科目 実践の基盤と なる知識と技 倫理性を高める科目 豊かな感性と 術を示せるこ 1) 倫理観をもつ とが単位認定 看護専門職者 3 論理的思考能力を高める科目 の要件であ る。 4 表現力を培う科目 1 社会の理解を深める科目 2 人間の理解を深める科目 実践の基盤と なる知識を示 創造性豊かな 2) (3) せることが単 人間の身体機能と病態を理解する科目 看護専門職者 位認定の要件 である。 4 看護の基本となる科目 (5) 看護実践の基盤となる科目 看護実践の応用となる科目 実践の基盤と (1) ニーズに対応 なる知識と技 する実践能力 術を統合させ 3) 看護の実践 $\triangle$ を備えた看護 た実践の修得 専門職者 の機会があ (3) 看護を統合する科目 る。 5. 看護の実践 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することが できる。 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り (1) 巻く環境の観点で捉えることができる。 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・ 模擬的な場で 福祉制度や関係機関の機能と連携について説明で 人々のニーズ 実践できるこ 1) に基づいた看 $\bigcirc$ とが単位認定 人々の健康に関するニーズを明らかにするため の要件であ 護の実践 に、必要な情報を収集し、アセスメントすること 3 る。 ができる。

4

ことができる。

健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画する

5	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階 に応じた看護を実践できる。
6	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職 と協働して、人々がその健康問題を解決すること を支援することができる。
7	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができ る。
8	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社 会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマ ル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、 システム化の重要性を説明できる。

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1)	地域の人々の 生命と暮らし を守る	1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解 し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活 背景について説明できる。 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを	Δ	修得の機会が あるが、単位 認定に関係な
		2	考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		心に (大)
		1	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の 実際を理解し、説明できる。		修得の機会が
a島の% ら学ぶ	福島の災害か ら学ぶ	2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、 適切に説明できる。	Δ	あるが、単位認定に関係ない。
	3	3	放射線(および災害)に対する地域住民の不安が 理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケ ーションについて説明できる。		

### 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。

		1	看護実践を通して、看護学上の課題 を考えることができる。		修得の機会が
1)	科学的・論理的思考   	2	科学的思考に基づいて看護学上の課 題を解決することの重要性を説明で きる。	_	ない

テキスト: 特に指定なし

参考書: 授業時に提示する

成績評価方法: 講義・演習への参加度、課題提出物、出欠状況、定期試験結果により評価する。

その他(メッセージ等): 学生が主体的に考え、知識・技術を修得し、積極的に学びとる 授業です。特に演習は重要となりますので、積極的に参加してください。

回数	日時	項目	内容
第1回	4/16(木) I	救急看護の概念と	救急医療の変遷、救急看護の概念と対象者の特徴
	8:40~9:40	基本となる技術	基本を学ぶ(管野)
第2回	4/16(木) Ⅱ	救急患者への対応①	対象者の理解とフィジカルアセスメント
	9:50~10:50	救急看護の概念と 基本となる技術	BLS およびファーストエイド救急技術を学ぶ (菅野)
第3回	4/16(木)Ⅲ	救急患者への対応②	小児救急看護
	11:00~12:00		(鈴木学而先生)
第4回	4/23(木) [	救急患者への対応③	対象者のフィジカルアセスメント
	8:40~9:40		BLS およびファーストエイド救急技術を学ぶ (菅野)
第5回	4/23(木)Ⅱ	演習:1 BLS	BLS および応急処置や救急技術を学ぶ。
	9:50~10:50	演習:2 小児救急	(脇屋先生および担当教員)
第6回	4/23(木)Ⅲ	演習:1 BLS	BLS および応急処置や救急技術を学ぶ
	11:00~12:00	演習:2 小児救急	(脇屋先生および担当教員)
第7回	4/30(木) I	救急看護の実際①	災害時の救急看護およびトリアージ
	8:40~9:40		(菅野)
第8回	4/30(木) Ⅱ	救急看護の実際②	救命救急センター看護師によるプレホスピタル
	9:50~10:50		ケア、フライトナースの役割、院内救急
			(宮崎看護師)
第9回	4/30(木)Ⅲ	救急看護の実際③	救命救急センター看護師によるプレホスピタル
	11:00~12:00		ケア、フライトナースの役割、院内救急
笠 10 回	5/7(木) [		(宮崎看護師)
第10回	8:40~9:40	救急看護の実際④	事例を通して救急看護について学ぶ (菅野)
第11回	5/7(木) [[	救急看護に関する法	救急・集中ケアにおける終末期看護
	9:50~10:50	律や倫理② 	救急看護に関連する法律や倫理
笠10层	5/7(★)Ⅲ		(菅野)
第12回	5/7(木)Ⅲ   11:00~12:00	特別講義 	救命救急看護について学ぶ (脇屋先生)
	11.00 - 12.00		「伽圧ルエル

区分名: 看護実践の基盤となる科目

科目名 (英語名称含む):終末期にある人の看護 ( End-of-life care )

教員名:井上水絵、横山郁美、菅野久美、三浦浅子、他

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度 前期 , 必修/選択: 必修

授業形態:講義·演習 , 単位数:2 単位 , 時間数:30 時間

概要:看護師には終末期にある患者とその家族についてのケアが求められている。この科目においては、終末期にある患者と家族の理解を深め、その人らしい生を全うできるような支援を行うための看護について学習する。また、人間の生死について自分なりの考えを深めるとともに、他の人の考え方や価値観を尊重できる態度を養う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

### 学習目標:

### (一般目標)

- 1. 終末期にある患者とその家族が直面する諸問題や体験について理解する。
- 2. 終末期にある人の看護を実践する上で必要な知識、技術、態度について学習する。

### (行動目標)

- 1. 終末期医療に関する概念(ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア)について説明できる。
- 2. 死に向かう人々の心理過程と悲嘆プロセス、死別後の家族の悲嘆プロセスについて説明できる。
- 3. 終末期にある患者とその家族が体験する身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を説明できる。
- 4. 終末期に出現する症状と症状緩和の方法について説明できる。
- 5. 終末期にある人の看護における看護の役割を述べることができる。
- 6. 終末期にある患者とその家族を支えるための保健医療システムや社会資源について 説明できる。
- 7. 学習のプロセスを通し自分の死生観について述べることができる。
- 8. 終末期にある人の看護に関する文献を読みテーマをあげて自分の考えを記述することができる。

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、 行動できる。 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ 実践の基礎と (1)れに基づき、考え、行動できる。 なる知識を示 せることが単 1) 看護倫理 生命の尊厳や人権について理解し、人々の 意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる 位認定の要件 2 である ことができる。 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣 (1)実践の基礎と い、態度をとることができる。 習慣・服 なる知識を示 時間を厳守し、何事においても真摯に対応 2) 装・品位/ (2)せることが単 し、積極性や誠実性を示すことができる。 礼儀 位認定の要件 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す (3) である ことができる。 態度、習慣、価 値観を模擬的 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 (1)3) 対人関係 に示せること  $\bigcirc$ 意を払って接することができる。 が単位認定の 要件である 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守 1 法令等の規 り、人々のプライバシーを尊重できる。 4) 同上  $\bigcirc$ 範遵守 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守 2 することができる。 2. 生涯学習 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学 的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 (1) することの重要性を理解できる。 基盤となる 看護学に関する情報を、目的に合わせて 態度、習 効率的に入手することができる。 慣、スキル 自己啓発と 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 1) を示せるこ  $\bigcirc$ 自己鍛錬 評価を行い、自身で責任を持って考え、 とが単位認 行動できる。 定の要件で 自らのキャリアをデザインし, 自己主導 ある (4) 型学習(自身の疑問や知識・技能不足を

, 1				1 '		
			認識し、自ら必要な学習)により、常に			
			自己の向上を図ることができる。			
		3	3. 人間関係の理解とコミュニケーション			
自己を	内省する力を	養う	とともに、他者とのコミュニケーションを通	 通して、他	者を理解し、	
互いの	立場を尊重し	たよ	りよい人間関係を築くことができる。			
			人々の生命、健康、生活について幅広い関			
		(1)	心を持ち、深く洞察することができる。			
	看護を必要		人々の社会的背景を理解して尊重するこ		実践の基礎	
	とする人々	2	とができる。		となる知識	
1)	とのコミュ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ		を示せるこ	
1 /	ニケーショ	(3)	ケーションスキルを身につけ、実践でき		とが単位認	
	ン	0	る。		定の要件で	
			************************************		ある	
		4	思決定を支援することができる。			
			人々の健康を支えるチームの一員に看護			
		1	の立場から参加し、他職種と協働できる。			
		2	チーム医療におけるリーダーシップの意		女性の甘葉	
			義と看護専門職者が果たす役割について		実践の基礎	
	チームでの		理解することができる。		となる知識	
2)	コミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信	•	を示せるこ	
	ーション	3	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		とが単位認	
			責任を果たす重要性を理解することがで		定の要件で	
			きる。		ある	
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療			
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する			
			重要性を理解することができる。			
4. 知識とその応用						
看護専	看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を			
			説明できる。(学部コースツリー参照)			
	豊かな感性				 修得の機会	
1)	と倫理観を	1	感性を高める科目	_	がない	
<u> </u>		l		[		

	もつ看護専 門職者	2	倫理性を高める科目		
		3	論理的思考能力を高める科目		
		4	表現力を培う科目		
		1	社会の理解を深める科目		
	創造性豊か	2	人間の理解を深める科目		基盤となる知識を示せ
2)	な看護専門職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	•	ることが単 位認定の要
	4敗1日	4	看護の基本となる科目		件である
		5	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目		
3)	応する実践 能力を備え た看護専門	2	看護の実践	_	修得の機会 がない
	職者	3	看護を統合する科目		
			5. 看護の実践		
	生活するあら することがで		場において、あらゆる健康レベルの人々のこ	ニーズに	基づいた看護
		1	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。		基盤となる
1)	人々のニー ズに基づい た看護の実	2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。	•	知識を示せ ることが単 位認定の要
	践	3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		件である

	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計	
4)	画することができる。	
9	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健	
(3)	康段階に応じた看護を実践できる。	
	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の	
6	専門職と協働して、人々がその健康問題を	
	解決することを支援することができる。	
3)	看護実践を評価し、計画の修正を図ること	
	ができる。	
	地域の人々の健康問題の解決のために、既	
	存の社会資源の改善や新たな社会資源の	
8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー	
	ビスのネットワーク化、システム化の重要	
	性を説明できる。	
	7	<ul> <li>(4) 画することができる。</li> <li>(5) 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。</li> <li>(6) 専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。</li> <li>(7) 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。</li> <li>地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要</li> </ul>

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

地	地域の人々	1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連		
1)	の生命と暮		する要因や生活背景について説明できる。	_	修得の機会
	らしを守る		人々とともに、安心して生活できる地域づ		がない
	00543	2	くりを考え、そのために協働する看護専門		
			職者の役割について説明できる。		
			福島でおこった大規模複合災害を学び、必		
		1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす	_	修得の機会がない
			る各種連携の実際を理解し、説明できる。		
	福島の災害	2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的		
2)	から学ぶ		に学び、適切に説明できる。		
	いの子の		放射線(および災害)に対する地域住民の		17-12 V .
		3	不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		
			クコミュニケーションについて説明でき		
			る。		
	<del></del>				

7. 看護学発展への貢献

テキスト:指定しない

### 参考書:

1. 梅田恵、射場典子編集:緩和ケア 大切な生活・尊厳ある生をつなぐ技と心. 南山堂. 2011

- 2. 鈴木志津枝、内布敦子編集:緩和ケア・ターミナルケア看護論. ヌーベルヒロカワ. 2011
- 3. 佐藤禮子監修: 絵で見るターミナルケア 人生の最後を生き抜く人へのかぎりない援助. GAKKEN. 2010
- 4. 嶺岸秀子、千崎美登子編著:がん看護の実践1 エンドオブライフケアのがん緩和ケア と看取り. 医歯薬出版社. 2008

成績評価方法:出席、課題、試験により総合的に判断する

その他 (メッセージ等): 人間の生や死に着いて学ぶことを通して自分なりの死生観について考えを深めて下さい。

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1-2回	終末期医療に関する概	緩和ケアの歴史、定義、死生観、わが国の緩和ケア
	念・歴史・現状	の現状、様々な場における終末期ケア
第3-4回	終末期にある患者と家	トータルペイン(全人的苦痛)、死にゆく人の心理・
	族の看護(1)	悲嘆経過、 家族の悲嘆経過とそのケア
第5-6回	終末期にある患者と家	がん看護専門看護師の役割(患者・家族・遺族ケ
	族の看護 (2)	ア)、看護師への教育(1)
第7-8回	終末期にある患者と家	がん看護専門看護師の役割(患者・家族・遺族ケ
	族の看護 (3)	ア)、看護師への教育 (2)
第 9-10	終末期にある患者と家	代替補完療法、一般病棟での看取り
口	族の看護 (4)	
第 11-12	終末期にある患者と家	終末期にある非がん患者の看護
口	族の看護 (5)	
第 13-14	在宅療養患者および家	在宅緩和ケア・在宅での緩和ケアの実際

口	族の終末期にある人の	
	看護	
第 15-16	終末期にある患者と家	リンパ浮腫、リンパ浮腫を持つ人への看護
口	族の看護 (6)	
第 17-18	終末期にある患者と家	終末期における看護師の役割と患者の様相
口	族の看護 (7)	
第 19-21	終末期にある患者と家	リンパ浮腫、リンパ浮腫を持つ人への看護
口	族の看護 (8)	
第 22-23	終末期にある患者と家	緩和ケア病棟のおけるチーム医療
口	族の看護 (9)	

区分名:看護実践の応用となる科目

科目名 (英語名称含む): 在宅療養を支える看護 (Home Care Nursing)

教員名:髙橋香子,秦暁子

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度前期, 必修/選択: 必修

授業形態:演習 , 単位数:2単位 , 時間数:60時間

概要:在宅療養者とその家族の生活および健康課題について理解し、さらに在宅療養を支える保健医療福祉等の法制度、ケアシステムについて学ぶ。また、在宅看護の特徴と機能を理解するとともに、在宅療養支援の方法、継続看護と退院支援、チームケアの重要性について学び、在宅ケアにおける看護職の役割について探求する。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

学習目標:1)在宅ケアに関連する概念、在宅看護の機能について説明できる。

- 2) 在宅療養を支える社会資源と多職種協働について説明できる。
- 3) 在宅療養者とその家族への支援の必要性とその方法について説明できる。
- 4) 在宅看護技術について実施上の要点を説明することができる。
- 5) 退院支援と継続看護の意義、看護職の役割について説明できる。
- 6) 在宅看護の質の評価、在宅看護管理について説明できる。

		科	目達成レベル				
	1. プロフェッショナル						
看護専	門職者をめざ	す者	として、それにふさわしい基本的な態度・姿	勢の必	必要性を理解し、		
行動で	きる。						
		1	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。		修得の機会はあるが、単位		
1) 看護倫理	2	生命の尊厳や人権について理解し、人々の 意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる ことができる。	$\triangle$	認定に関係ない			
	習慣・服	1	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。				
2) 装・品位/ 礼儀	装・品位/	表・品位/ ②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	Δ	II		
	3	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す ことができる。					

			他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬		1
3)	対人関係	1	意を払って接することができる。	$\triangle$	II .
			個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守		
	<b>社                                    </b>	1			
4)	法令等の規		り、人々のプライバシーを尊重できる。	$\triangle$	IJ.
	範遵守	2	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守		
			することができる。		
			2. 生涯学習		
看護専	門職者として	優れ	た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関	関連の Д	広い分野の科学
的情報	を収集・評価	し、	論理的思考の継続的改善を行うことができる	0 0	
		(1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献		
		1)	することの重要性を理解できる。		
		(2)	看護学に関する情報を、目的に合わせて		修得の機会 はあるが、 単位認定に 関係ない
		(2)	効率的に入手することができる。		校伊の地会
	自己啓発と		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己		, , , , , , , , ,
1)		3	評価を行い、自身で責任を持って考え、	$\triangle$	,
	自己鍛錬		行動できる。		, , , , , , , , , ,
	4		自らのキャリアをデザインし, 自己主導		関係ない
			型学習(自身の疑問や知識・技能不足を		
		(4)	認識し、自ら必要な学習)により、常に		
			自己の向上を図ることができる。		
			3. 人間関係の理解とコミュニケーション		-
自己を	内省する力を	 養う	とともに、他者とのコミュニケーションを通	ilて、	他者を理解し、
互いの	立場を尊重し	たよ	りよい人間関係を築くことができる。		
			人々の生命、健康、生活について幅広い関		
		1	心を持ち、深く洞察することができる。		
	看護を必要	(i)	人々の社会的背景を理解して尊重するこ		佐畑の機入
	とする人々	2	とができる。		修得の機会
1)	とのコミュ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ	$\triangle$	はあるが、
	ニケーショ	3	ケーションスキルを身につけ、実践でき		単位認定に
	ン		る。		関係ない
			望ましい健康行動がとれるよう人々の意		
		4	思決定を支援することができる。		
6.)			人々の健康を支えるチームの一員に看護	•	実践の基盤
2)		1	の立場から参加し、他職種と協働できる。		となる知識

	2	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。 チームメンバーに対して、尊敬、共感、信	を示せるこ とが単位認 定の要件で ある
チームでの コミュニケ ーション	3	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての 責任を果たす重要性を理解することがで きる。	
	4	人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。	

# 4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

	<u> </u>				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)		
		1	感性を高める科目		
- 1	豊かな感性と倫理観を	2	倫理性を高める科目		修得の機会
1)	もつ看護専 門職者	3	論理的思考能力を高める科目	_	がない
		4	表現力を培う科目		
		1	社会の理解を深める科目		"
	会心生 神 忠、	2	人間の理解を深める科目		
2)	創造性豊か な看護専門 職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	_	II
	机石	4	看護の基本となる科目		
		5	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	1	看護実践の応用となる科目	0	模擬的な場に知識を応
				<u> </u>	

	能力を備え た看護専門 職者	3	看護の実践 看護を統合する科目		用できるこ とが単位認 定の要件で
					ある
			5. 看護の実践		
	生活するあら することがで	-	場において、あらゆる健康レベルの人々のコ 。	ニーズに碁	甚づいた看護
	と夫成りることがく	1	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。		
		2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		実践の基盤となる知識を示せることが単位認
	(	3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
	人々のニー ズに基づい	4	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
1)	た看護の実践	5	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	•	
	戊	6	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		ある
		7	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		8	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要		
			性を説明できる。		

(1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。

(2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

		地域の特性やそこで暮らす人々の生活状		実践の基盤
地域のした	1	況を理解し、人々が抱える健康問題と関連		となる知識
		する要因や生活背景について説明できる。		を示せるこ
, -		人々とともに、安心して生活できる地域づ		
りしをする	2	くりを考え、そのために協働する看護専門		
		職者の役割について説明できる。		ある
		福島でおこった大規模複合災害を学び、必		
	1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす		修得の機会
		る各種連携の実際を理解し、説明できる。		
短色の災害	(A)	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的		佐伊の
	(2)	に学び、適切に説明できる。	_	修得の機会
かり子ぶ		放射線 (および災害) に対する地域住民の		1)1/2 V
	<u></u>	不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		を示せるこ とが単位認 定の要件で ある 修得の機会
	(3)	クコミュニケーションについて説明でき		
		る。		
	地域の人々の生命というというというでは、本事の生命を守るを守るの災害をいる。	地域の人々 の生命と暮 らしを守る ② (1) 福島の災害 (2)	地域の人々の生命と暮らしを守る       大々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。         福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。         福島の災害から学ぶ       放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。         放射線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	<ul> <li>地域の人々の生命と暮らしを守る</li> <li>② 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。</li> <li>福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。</li> <li>② 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。</li> <li>① 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。</li> <li>③ な好線(および災害)に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明でき</li> </ul>

# 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

			看護実践を通して、看護学上の		
		(1)	課題を考えることができる。		
1)	科学的・論理的思考		科学的思考に基づいて看護学	_	修得の機会   がない
		2	上の課題を解決することの重		13,21,
			要性を説明できる。		

テキスト:指定しない。

参考書:開講時に提示する。

成績評価方法:出席状況、授業への参加度、課題レポート、期末レポートにより総合的に評価する。

その他(メッセージ等): 在宅療養者・家族の立場に立ってどうすべきかを考え、積極的に 授業に参加すること。

回数	項目	内容 (キーワード等)
第 1-3 回	在宅看護の目的と法制度	在宅ケア、在宅看護、地域包括ケア
第 4-6 回	在宅療養者と家族への支援	在宅療養者の生活、健康課題、家族の介護力
第 7-9 回	在宅看護過程	在宅看護における情報収集・計画立案・実施・
		評価
第 10-12 回	医療依存度の高い療養者への	在宅療養者の医療ニーズ、訪問看護の実際
	看護	
第 13-16 回	在宅における援助技術(1)	在宅看護における主な援助技術
第 17-19 回	在宅における援助技術(2)	在宅看護技術の実際
第 20-23 回	在宅における援助技術(3)	口腔ケア・吸引
第 24-27 回	在宅における援助技術(4)	洗髪
第 28-30 回	在宅における援助技術(5)	在宅酸素療法と看護職の役割
第 31-33 回	在宅ケアマネジメントと関係	ケアマネジメント、社会資源、他職種との協
	機関・職種との連携(1)	働
第 34-36 回	在宅ケアマネジメントと関係	在宅療養を支える歯科医師の役割
	機関・職種との連携(2)	
第 37-39 回	在宅ケアマネジメントと関係	在宅療養を支える薬剤師の役割
	機関・職種との連携(3)	
第 40-42 回	在宅ケアマネジメントと関係	退院支援、退院調整、継続看護
	機関・職種との連携(4)	
第 43-45 回	在宅看護管理	在宅看護管理、在宅看護の質の評価

区分名:看護実践の応用となる科目(地域看護援助技術)

科目名(英語名称含む):地域看護学2(地域看護援助技術)【看護3】

教員名: 古戸順子, 阿久津和子他

開講年次: 3年次, 学 期: 2020年度 前期 , 必修/選択:必修

授業形態:講義·演習 , 単位数:2 単位 , 時間数:45 時間

概要:地域看護活動の基本である健康診査,保健指導,健康相談,家庭訪問などの健康の保持増進,疾病予防のための支援方法・支援技術について学習する。さらに、発達段階の特性に応じて乳幼児,母子,成人,高齢者を対象とした地域看護活動,および健康障がいの特性に応じた障がい(精神障がい含む),難病,感染症の保健福祉活動について学習する。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

(一般目標) 1. 地域看護活動の原則について理解する。

- 2. 発達課題の特性に応じた地域看護活動について学ぶ。
- 3. 健康障がいの特性に応じた地域看護活動について学ぶ。
- 4. 健康保持増進および疾病予防のための支援方法について学ぶ。

### (行動目標) 1. 地域看護活動の基本について述べられる。

- 2. 地域看護活動の特徴について説明できる。
- 3. 対象の発達段階の特性に応じた健康課題を述べられる。
- 4. 対象の発達段階の特性に応じた地域看護の展開方法について説明できる。
- 5. 対象の健康障がいの特性に応じた地域看護の展開方法について説明できる。
- 6. 対象の発達段階と健康課題に対応した保健福祉行政の政策や施策について述べられる。
- 7. 地域看護活動の援助方法・援助技術について説明できる。
- 8. 対象の発達段階と健康課題に対応した援助技術(家庭訪問)を実施できる。
- 9. 演習のグループ活動では、他のメンバーと議論を行ない、協調することができる。
- 10. 演習は、事前と事後の自己学習を行ない、自主的な態度で参加することができる。

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、							
行動で	きる。						
		(1)	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ		態度、習慣、		
			れに基づき、考え、行動できる。		態度、習慣、価値観を積極的に示せる記定の要件である		
1)	看護倫理		生命の尊厳や人権について理解し、人々の	0	的に示せるこ		
		2	意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		とが単位認定		
			ことができる。		の要件である		
			状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣				
	77 m. nn	1	い、態度をとることができる。				
	習慣・服		時間を厳守し、何事においても真摯に対応		とが単位認定の要件である		
2)	装・品位/	2	   し、積極性や誠実性を示すことができる。	0	"		
	礼儀		自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す				
		3	ことができる。				
- )		他者に自分の価値観を押しつけず、常	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬				
3)	対人関係	1	意を払って接することができる。	0	"		
	法令等の規 範遵守		個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守				
		1)	り、人々のプライバシーを尊重できる。				
4)			各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守	O	"		
		2	することができる。				
			2. 生涯学習				
看護専	門職者として	優れ	た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関	関連の別			
的情報	を収集・評価	し、	論理的思考の継続的改善を行うことができる	) 。			
			看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献				
		1	   することの重要性を理解できる。				
			看護学に関する情報を、目的に合わせて				
		2	   効率的に入手することができる。				
	L		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己				
1)	自己啓発と	3	評価を行い、自身で責任を持って考え、	$\triangle$	はあるが、		
	自己鍛錬		行動できる。		単位認定に		
			自らのキャリアをデザインし, 自己主導		関係ない		
			型学習(自身の疑問や知識・技能不足を				
		(4)	認識し、自ら必要な学習)により、常に				
			自己の向上を図ることができる。				
		. ;	3. 人間関係の理解とコミュニケーション				

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 人々の生命、健康、生活について幅広い関 心を持ち、深く洞察することができる。 基盤となる 人々の社会的背景を理解して尊重するこ 看護を必要 態度、スキ とする人々 とができる。 ルを示せる 1)  $\bigcirc$ とのコミュ 看護専門職者としてふさわしいコミュニ ことが単位 ケーションスキルを身につけ、実践でき ニケーショ 認定の要件 ン る。 である 望ましい健康行動がとれるよう人々の意 (4) 思決定を支援することができる。 人々の健康を支えるチームの一員に看護 (1) の立場から参加し、他職種と協働できる。 チーム医療におけるリーダーシップの意 義と看護専門職者が果たす役割について 実践の基盤 理解することができる。 となる知識 チームでの チームメンバーに対して、尊敬、共感、信 を示せるこ 2) コミュニケ 頼、誠実さを示し、看護専門職者としての とが単位認 ーション (3) 定の要件で 責任を果たす重要性を理解することがで ある きる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 (4) チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。 4. 知識とその応用 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照) (1) 感性を高める科目 豊かな感性 と倫理観を 修得の機会 1) 倫理性を高める科目 もつ看護専 がない 門職者

論理的思考能力を高める科目

(3)

		4	表現力を培う科目		
		1)	社会の理解を深める科目		
	会心生 44 曲 2、	2	人間の理解を深める科目		修が 模でる位件 ず 実とをと定あのい 横実こ認で い 践な示がのる 権
2)	創造性豊か な看護専門 職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	_	
	41以行	4	看護の基本となる科目		
		5	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対 応する実践 3) 能力を備え た看護専門 職者	1	看護実践の応用となる科目		
3)		2	看護の実践	0	ることが単 位認定の要
		3	看護を統合する科目		
			5. 看護の実践		
人々が	生活するあら	ゆる	場において、あらゆる健康レベルの人々のこ	ニーズに碁	<b>基づいた看護</b>
を実践	することがで	きる	0		
		1	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。		
	人々のニー	2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		となる知識
1)	ズに基づい た看護の実 践	3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	•	とが単位認 定の要件で
		4	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		ある
		(5)	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		

	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の	
6	専門職と協働して、人々がその健康問題を	
	解決することを支援することができる。	
7	看護実践を評価し、計画の修正を図ること	
	ができる。	
	地域の人々の健康問題の解決のために、既	
	存の社会資源の改善や新たな社会資源の	
8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー	
	ビスのネットワーク化、システム化の重要	
	性を説明できる。	

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

			地域の特性やそこで暮らす人々の生活状		実践の基盤
	地域の人々	1	況を理解し、人々が抱える健康問題と関連		となる知識
1)	の生命と暮		する要因や生活背景について説明できる。		を示せるこ
1)	らしを守る		人々とともに、安心して生活できる地域づ		とが単位認
	りしをする	2	くりを考え、そのために協働する看護専門		となる知識を示せるこ
			職者の役割について説明できる。		ある
			福島でおこった大規模複合災害を学び、必		
		1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす		
			る各種連携の実際を理解し、説明できる。		
	福島の災害	2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的		依担の機合
2)	から学ぶ	( <u>a</u> )	に学び、適切に説明できる。	_	,,
	かり子ぶ		放射線(および災害)に対する地域住民の		1717 V
		(3)	不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		
		3	クコミュニケーションについて説明でき		
			る。		

# 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

		1	看護実践を通して、看護学上の 課題を考えることができる。		
1)	科学的・論理的思考		科学的思考に基づいて看護学	_	修得の機会
		2	上の課題を解決することの重		N1121
			要性を説明できる。		

テキスト: 荒賀直子・後閑容子編: 公衆衛生看護学. jp 第 4 版データ更新版. インターメディカル. 2017

参考書:宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編:最新公衆衛生看護学第2版総 論 日本看護協会出版会

宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編:最新公衆衛生看護学第2版各論1 日本看護協会出版会

宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗・田村須賀子編:最新公衆衛生看護学第2版各論2 日本看護協会出版会

標美奈子他:標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 標美奈子他:標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院

標美奈子他:標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院

成績評価方法:出席日数,講義・演習の取り組み態度、筆記試験、課題提出物等の総合評価 その他(メッセージ等):これまでの地域看護の学びを統合し、創造的に学びを深め、実践 力となる基礎を習得しましょう。

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	地域看護活動の原則と実際 1	地域看護の定義,看護の目的
	[目的と機能]	
第2回	地域看護活動の原則と実際 2	地域看護活動の特徴、地区を知る
	[地区活動と地区把握]	
第3回	地域看護活動と援助技術 1	地域看護活動,保健師活動技術の特徴
	[保健師が行う援助技術の特徴]	
第4回	地域看護活動と援助技術 2	健康相談・家庭訪問の定義,目的,方
	[健康相談・家庭訪問]	法, およびその実際
第5回	地域看護活動と援助技術3	健康診査の定義,目的,およびその実
	[健康診査]	際
第6回	地域看護活動と援助技術 4	健康教育・保健指導の定義,目的,お
	[健康教育・保健指導]	よびその実際
第7回	地域看護活動と援助技術 5	住民グループ支援の目的, グループ発

	[住民グループ支援]	展のプロセス
第8回	地域看護活動と援助技術 6	住民グループ支援の実践例
	[住民グループ支援の実際]	
第9回	発達段階の特性に応じた地域看護活動1	親(母)と子ども、保健福祉政策・施
	[母子保健福祉活動]	策
第10回	発達段階の特性に応じた地域看護活動2	親(母)と子ども,心理,地域看護活
	[母子保健福祉活動]	動
第11回	発達段階の特性に応じた地域看護活動3	乳幼児の発達、健康診査の実際、母子
	[母子保健福祉活動の実際]	への保健指導
第 12 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動4	妊娠期からの切れ目のない母子保健
	[母子保健福祉活動の実際]	対策の実際、支援技術
第13回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 5	乳幼児の発達, 家庭環境, 乳幼児の家
	[乳幼児のいる家庭への訪問]	庭訪問の意義
第 14 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動 6	乳幼児のいる家庭への訪問, 支援技術
	[乳幼児のいる家庭への訪問]	
第 15 回	演習:家庭訪問 オリエンテーション	
第16回	演習:家庭訪問(1)	
第 17 回	演習:家庭訪問(2)	
第 18 回	演習:家庭訪問(3)	
第19回	演習:家庭訪問(4)	
第 20 回	演習:家庭訪問(5)	
第 21 回	演習:家庭訪問(6)	
第 22 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動7	成人,保健福祉政策・施策,地域看護
	[成人保健福祉活動]	活動
第 23 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動8	生活習慣病,予防,地域看護活動
	[生活習慣病予防活動の実際]	
第 24 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動9	高齢者、保健福祉政策・施策、地域看
	[高齢者保健福祉活動]	護活動
第 25 回	発達段階の特性に応じた地域看護活動	介護予防,高齢者の QOL,地域看護活
	10 [介護予防活動の実際]	動
第 26 回	発達段階の特性に応じた地域看護活	認知症,家族,心理,地域看護活動
	11 [認知症対策の実際]	
第 27 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活	地域,障がい児(者),保健福祉政策・
	動 1 [障がい児(者)保健福祉活動]	施策

第 28 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活	障がい児(者),家族,心理,地域看
	動 2 [障がい児(者)保健福祉活動]	護活動
第 29 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活	地域、難病、保健福祉政策・施策
	動 3 [難病保健福祉活動]	
第 30 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活	難病患者, 家族, 心理, 地域看護活動
	動 4 [難病保健福祉活動]	
第 31 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活	感染症、保健政策・施策
	動 5 [感染症に対する保健活動]	
第 32 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活	感染症発症予防,発生時の対応,地域
	動 6 [感染症に対する保健活動]	看護活動
第 33 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活	地域、精神障がい、保健福祉政策・施
	動 7 [精神保健福祉活動]	策
第 34 回	健康障がいの特性に応じた地域看護活	精神障がい者,家族,心理,地域看護
	動 8 [精神保健福祉活動]	活動
第 35 回	まとめ (様々な健康レベルに応じた地域	
	看護活動の意義と方法)	

区分名:看護実践の応用となる科目

科目名 (英語名称含む):健康障害をもつ子どもの看護 (Nursing Care for Children)

教員名:和田久美子,古溝陽子,鈴木学爾,女池朝子,金澤久美,その他

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度 前期 , 必修/選択: 必修 授業形態: 講義/演習 , 単位数: 3単位 , 時間数: 60時間

概要:新生児期から青年期(思春期)にある対象者とその家族について理解し、子どもの 発達段階と健康レベルに応じた看護援助を行える知識、技術を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

## 学習目標:

- 1. 新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青年期(思春期)という成長発達の特徴を健康と生活の視点から説明できる。
- 2. 子どもの権利を理解し、子どもやその家族を個として尊重することの意味を説明できる。
- 3. さまざまな発達段階と健康レベルにある子どもと家族に対して、その状況に応じた看護援助を説明できる。
- 4. 小児保健・医療・福祉・教育の中における小児看護の役割を説明できる。
- 5. 専門職業人としての態度を習得する。

		科目達成レベル			
			1. プロフェッショナル		
看護専	印職者をめざ	す者	として、それにふさわしい基本的な態度・姿	勢の必	(要性を理解し、
行動で	きる。				
		(1)	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ		実践の基盤と
	看護倫理	(I)	れに基づき、考え、行動できる。		なる知識を示
1)		f護倫理 ②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の	•	せることが単
			意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		位認定の要件
			ことができる。		である
		1)	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣		実践の基盤と
2)	習慣・服 2) 装・品位/ 礼儀		い、態度をとることができる。		実践の基盤 C
۷)		2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応		せることが単
	TU   技	٧	し、積極性や誠実性を示すことができる。		とることが早

			自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す		位認定の要件	
		3	ことができる。		である	
3)	対人関係	1)	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。	Δ	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない	
	法令等の規	1)	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守 り、人々のプライバシーを尊重できる。		実践の基盤と なる知識を示	
4)	範遵守	2	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守 することができる。	•	せることが単 位認定の要件 である	
			2. 生涯学習			
			た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び 論理的思考の継続的改善を行うことができる		広い分野の科学	
		1	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。			
	自己啓発と 自己鍛錬	2	看護学に関する情報を、目的に合わせて 効率的に入手することができる。		羽組の機入	
1)		(3)	3	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 評価を行い、自身で責任を持って考え、 行動できる。	Δ	習得の機会はあるが、単位認定に
			自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		関係ない     	
	3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
	自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
	看護を必要	1	人々の生命、健康、生活について幅広い関 心を持ち、深く洞察することができる。		実践の基盤となる知識	
1)	とする人々 とのコミュ ニケーショ	2	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。 看護専門職者としてふさわしいコミュニ	•	を示せることが単位認	
	\[ \sum_{\sum_{\text{\chi}}} \sum_{\text{\chi}} \]	3	ケーションスキルを身につけ、実践できる。		定の要件である	

		<ul><li>4</li><li>1</li></ul>	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。		
	チームでの	2	チーム医療におけるリーダーシップの意 義と看護専門職者が果たす役割について 理解することができる。		習得の機会
2)		3	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての 責任を果たす重要性を理解することができる。	Δ	はあるが、 単位認定に 関係ない
		4	人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。		

# 4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)	
		1	感性を高める科目	実践の基盤
1)	豊かな感性と倫理観を	2	倫理性を高める科目	となる知識 を示せるこ
	もつ看護専 門職者	3	論理的思考能力を高める科目	とが単位認 定の要件で
		4	表現力を培う科目	ある
		1	社会の理解を深める科目	実践の基盤
2)	創造性豊か な看護専門 職者	2	人間の理解を深める科目	となる知識 を示せるこ
2)		3	人間の身体機能と病態を理解する科目	とが単位認 定の要件で
		4	看護の基本となる科目	ある

ī	İ	1		İ	i
		5	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対		看護実践の応用となる科目		実践の基盤となる知識
3)	応する実践 能力を備え	2	看護の実践	•	を示せることが単位認
	た看護専門職者	3	看護を統合する科目		定の要件である
	I		5. 看護の実践		I
	生活するあら することがで		場において、あらゆる健康レベルの人々のコ	ニーズに碁	基づいた看護
		1)	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。		
	3	2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
	人々のニー	4	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		実践の基盤となる知識
1)	ズに基づいた看護の実	(5)	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	•	を示せることが単位認
	践	6	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		定の要件である
		7	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		8	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

		1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状		実践の基盤
			況を理解し、人々が抱える健康問題と関連		となる知識
1)	地域の人々の生会と草		する要因や生活背景について説明できる。		を示せるこ
1)	の生命と暮らしを守る		人々とともに、安心して生活できる地域づ		とが単位認
	りしをする	2	くりを考え、そのために協働する看護専門		定の要件で
			職者の役割について説明できる。		ある
			福島でおこった大規模複合災害を学び、必		
		1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす		
			る各種連携の実際を理解し、説明できる。		
	福島の災害	0	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的		習得の機会
2)	から学ぶ	2	に学び、適切に説明できる。	_	がない
	がら子か		放射線(および災害)に対する地域住民の		N-17 1
			不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		
		3	クコミュニケーションについて説明でき		
			る。		

### 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

		1	看護実践を通して、看護学上の		習得の機会
		(1)	課題を考えることができる。		
1)	科学的・論理的思考		科学的思考に基づいて看護学	$\triangle$	はあるが、
		2	上の課題を解決することの重		単位認定に
			要性を説明できる。		関係ない

テキスト:随時提示する 参考書:随時提示する

成績評価方法:課題、試験等を合わせて評価する。

その他(メッセージ等): 「成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護 I ・ II 」で 学んだ、子どもの発達段階の特徴について復習して臨んで下さい。

	(字省項目 <i>)</i>			
回数	項目	内容(キーワード等)		
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション		
77 1 11	小児看護の理念	小児看護の対象(子どもと家族)		
第2回	小児看護の理念	子どものセルフケア能力、子どもの権利		
第3回	子どもの健康障害と看護	子どもを取り巻く社会、小児医療と小児看護の現状		
第4回	医療を体験する子どもの看護	健康障害が子どもに与える影響、プレパレーション、 インフォームド・アセント		
第5回	小児の健康障害①	F かり		
第6回	小児の健康障害②	感染症		
第7回	症状と看護①	発熱、嘔吐		
第8回	症状と看護②	下痢、脱水		
第9回	小児の健康障害③	アレルギー疾患		
第10回	小児の健康障害④	リウマチ性疾患、神経疾患		
第11回	症状と看護③	呼吸困難、けいれん		
第12回	症状と看護④	痛み		
第13回	小児の健康障害⑤	新生児疾患、染色体異常		
第14回	小児の健康障害⑥	内分泌疾患、代謝性疾患		
第 15 回	子どものヘルスアセスメント	成長発達への影響、子どもとのコミュニケーション、		
第15回	1 T S 800	身体計測、バイタルサイン測定		
第 16 回	検査処置を受ける子どもの看護	子どもとの関わり方、採血、経口与薬、末梢静脈内		
第10回	<b>便宜だ直を支けるするもの有</b> 度	点滴		
第 17 回	子どものヘルスアセスメントの技術			
为11日	(演習①)	│ │ バイタルサイン測定、身体計測、更衣、おむつ交換		
第 18 回	子どものヘルスアセスメントの技術	アバフルディン例に、3件前例、文気、45位ラ文族		
277 10 Ed	(演習①)			
第 19 回	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児の特徴、家族への影響、		
第 20 回	ハイリスク新生児の看護	早産・低出生体重児、先天性疾患		
第 21 回	ハイリスク新生児の看護			
第 22 回	子どもの吸入時の看護 (演習②) の準			
か44 凹	備 (GW)	子どもの状態観察・与薬時の看護		
第 23 回	演習②の準備(GW)			
第 24 回	小児の健康障害⑦	循環器疾患		

第 25 回	小児の健康障害⑧	消化器疾患			
第 26 回	演習②の準備 (GW)	フルシの小蛇知奈と古叶の子芸			
第 27 回	演習②の準備(GW)	- 子どもの状態観察・与薬時の看護			
第 28 回	健康障害をもつ子どもの看護	旭林広中 フルイの佐美価佐 外佐毛井			
第 29 回	健康障害をもつ子どもの看護	→ 慢性疾患、子どもの療養環境、継続看護 			
第 30 回	子どもの吸入時の看護 (演習②)	子どもの状態観察・吸入時の看護			
第 31 回	子どもの吸入時の看護 (演習②)	丁ともの仏態観祭・奴八時の有護 			
第 32 回	演習②のまとめ (GW)				
第 33 回	演習②のまとめ (発表)	   演習②の振り返りと共有			
第 34 回	演習②のまとめ (発表)	興首②の振り返りと共有 			
第 35 回	演習②のまとめ (発表)				
第 36 回	手術を受ける子どもの看護	タ期的子様 麻酔の特徴 は長怒涛への影響			
第 37 回	手術を受ける子どもの看護	- 多期的手術、麻酔の特徴、成長発達への影響			
第 38 回	小児の健康障害⑨	血液・腫瘍疾患			
第 39 回	小児の健康障害⑩	腎・泌尿器疾患			
第 40 回	障がいをもつ子どもの看護	子どもの障がいの特徴			
第 41 回	障がいをもつ子どもの看護	重症心身障害			
第 42 回	成人への移行期にあるひとへの看護	移行期医療、意思決定支援、ライフイベントに応じた支援			
第 43 回	発達障害をもつ子どもの看護	発達障害			
第 44 回	子どもの虐待と看護	虐待の要因・発見、虐待を受けた子どもと家族への			
<b>分</b> 44 凹	」 こ ひい信付と 1 曖	対応			
第 45 回	終末期にある子どもの看護	子どもの死の概念、子どもを看取る家族の看護、			
分 40 凹	ベル対にめる丁とも少有暖	グリーフケア			

区分名:看護実践の応用となる科目

科目名(英語名称含む): 健康障害をもつ高齢者の看護 II ( Gerontological Nursing II )

教員名:坂本 祐子,齋藤 史子,佐々木 千佳,杉本 幸子

開講年次:3年次,学期:2020年度前期,必修

授業形態:講義·演習 , 単位数:2 単位 , 時間数:45 時間

### 概要:

加齢に伴う変化と高齢者特有の健康障害が生活に及ぼす影響について理解し、Quality of Life の向上を目指した効果的な看護援助の実際について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

## 学習目標:

- 1. 高齢者特有の健康障害の成り立ちと生活への影響について理解する.
- 2. 高齢者の健康障害に特徴に適した援助方法について理解する.
- 3. 認知症と認知機能障害が高齢者の生活に与える影響について理解する.
- 4. 高齢者の生活を支援する社会資源について理解する.

学習アウトカム				科目達成レベル				
	1. プロフェッショナル							
	看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、							
行動で 1)	生命倫理と看護の倫理 れに基づき、考え、名 生命の尊厳や人権に	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。		実践の基盤となる知識を示				
		2	生命の尊厳や人権について理解し、人々の 意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる ことができる。	•	せることが単 位認定の要件 である			
2)	習慣・服 装・品位/ 礼儀	1	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣 い、態度をとることができる。	•	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の			
		2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。					
		3	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す ことができる。		要件である			
3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	•	実践の基盤と なる知識を示			

					せることが単		
					位認定の要件		
					である		
			個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守				
	法令等の規	1	り、人々のプライバシーを尊重できる。		修得の機会が		
4)	範遵守		各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守	_	ない		
		2	することができる。				
	l	I	2. 生涯学習				
看護専		優れ	た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関	関連の	広い分野の科学		
的情報	を収集・評価	L.	論理的思考の継続的改善を行うことができる	) <sub>o</sub>			
			看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献				
		1	することの重要性を理解できる。				
			看護学に関する情報を、目的に合わせて				
		2	効率的に入手することができる。		165/E 00 1416 A		
	自己啓発と 自己鍛錬		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己		修得の機会		
1)		3	評価を行い、自身で責任を持って考え、	$\triangle$	があるが、		
			行動できる。		単位認定に		
		4	自らのキャリアをデザインし, 自己主導		関係ない		
			型学習(自身の疑問や知識・技能不足を				
			認識し、自ら必要な学習)により、常に				
			自己の向上を図ることができる。				
	3. 人間関係の理解とコミュニケーション						
自己を	内省する力を	養う	とともに、他者とのコミュニケーションを通	iして、	他者を理解し、		
互いの	立場を尊重し	たよ	りよい人間関係を築くことができる。				
		(1)	人々の生命、健康、生活について幅広い関				
		•	心を持ち、深く洞察することができる。		実践の基		
	看護を必要	要②	人々の社会的背景を理解して尊重するこ		盤となる知		
	とする人々	<u> </u>	とができる。		識を示せる		
1)	とのコミュ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ	•	ことが単位		
	ニケーショ	3	ケーションスキルを身につけ、実践でき		認定の要件		
	ン		る。		である		
		(4)	望ましい健康行動がとれるよう人々の意				
		· ·	思決定を支援することができる。				
2)		(1)	人々の健康を支えるチームの一員に看護	Δ	修得の機会		
4)			の立場から参加し、他職種と協働できる。		があるが,		

		2	チーム医療におけるリーダーシップの意 義と看護専門職者が果たす役割について 理解することができる。	単位認定に関係ない
23	ームでの ミュニケ ( ノョン	3	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	
	(	4	人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。	

# 4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)		
	豊かな感性と倫理観を	1	感性を高める科目		
		2	倫理性を高める科目		修得の機会
1)	もつ看護専	3	論理的思考能力を高める科目	_	がない
	門職者	4	表現力を培う科目		
	創造性豊か	1	社会の理解を深める科目		
		2	人間の理解を深める科目		な出る場合
2)	な看護専門	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	_	修得の機会がない
	職者	4	看護の基本となる科目		13-12 V
		(5)	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対	(1)	   看護実践の応用となる科目		実践の基盤
3)	応する実践				となる知識
	能力を備え	2	看護の実践	•	を示せるこ
	た看護専門				とが単位認
	職者	3	看護を統合する科目		定の要件で
	•				ある

# 5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護 を実践することができる。

	i			7			
			人々の健康レベルを、成長発達や日常生活				
		1	を取り巻く環境の観点で捉えることがで				
			きる。				
			人々が活用できる地域の社会資源、保健・				
		2	医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に				
			ついて説明できる。				
			人々の健康に関するニーズを明らかにす				
		3	るために、必要な情報を収集し、アセスメ				
			ントすることができる。				
	人々のニー		健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計		実践の基盤		
		4	画することができる。		となる知識		
1)	ズに基づい		安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健	•	を示せるこ		
	た看護の実 践	(5)	康段階に応じた看護を実践できる。		とが単位認		
			看護の対象となる人々、保健医療福祉等の		定の要件で		
		6	専門職と協働して、人々がその健康問題を		ある		
			解決することを支援することができる。				
			看護実践を評価し、計画の修正を図ること				
		7	ができる。				
			地域の人々の健康問題の解決のために、既				
			存の社会資源の改善や新たな社会資源の				
		8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー				
			ビスのネットワーク化、システム化の重要				
			性を説明できる。				
			6. 地域社会への貢献				
(1)	地域の特性を	理解	し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して	生活でき	るよう、看護		
専門職	渚としての役	割を	果たすことができる。				
(2)	福島での大規	<b>漠複</b> ′	合災害から、災害時に必要となる種々の連携	について	学び、説明で		
きる。							
	地域の人々の生命と暮らしを守る		地域の特性やそこで暮らす人々の生活状				
			況を理解し、人々が抱える健康問題と関連				
1)			する要因や生活背景について説明できる。		修得の機会		
1)			人々とともに、安心して生活できる地域づ		がない		
		2	くりを考え、そのために協働する看護専門				
			職者の役割について説明できる。				
-				_			

			福島でおこった大規模複合災害を学び、必					
	福島の災害から学ぶ	1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす					
			る各種連携の実際を理解し、説明できる。					
		(a)	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的					
2)		2	に学び、適切に説明できる。	Ι	修得の機会       がない			
			放射線 (および災害) に対する地域住民の		N7121			
		3	不安が理解でき、社会・地域住民とのリス					
			クコミュニケーションについて説明でき					
			る。					
	7. 看護学発展への貢献							
看護学	看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する							
ことの	ことの重要性を理解できる。							
	科学的・論 理的思考	1)	看護実践を通して、看護学上の課題を考					
			えることができる。		修得の機会			
1)			科学的思考に基づいて看護学上の課題	_	がない			
		2	を解決することの重要性を説明できる。					

### テキスト:

- 1. 鳥羽 研二,他:系統看護学講座専門分野 II 老年看護 病態・疾患論,第5 版. 医学書院(2019 年度購入済)
- 北川 公子,他:系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版,医学書院 (2019年度購入済)

# 参考書:

- 1. 奥宮暁子編:ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版. 医歯薬出版株式会社
- 2. 山田 律子編:生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図 第3版, 医学書院
- 3. 正木 治恵編:パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護 第2版, 照林社

成績評価方法:全講義数の3分の2以上出席した学生が成績評価の対象となる. 評価は,筆記試験と講義中提示する課題(事例検討)を対象とし,各々の配点は筆記試験80点,事例検討20点とする.

その他:4年次生「高齢者への看護学実習」と並行開講のため教員への質問は、オフィス・アワーやメールを活用してください.

坂 本:毎週火曜日 12:00~13:00 齋 藤:毎週月曜日 12:15~13:00

佐々木:原則毎週水曜日12:15~13:00 (研究室前の予定表確認のこと)

杉 本:毎週水曜日 12:15~13:00 (5/13,20,27 6/3 を除く)

# 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1回	コースオリ,復習	
第2回	健康逸脱から回復を促す看護① 呼吸器疾患	肺炎,誤嚥性肺炎,COPD
第 3 回	事例検討①	事例検討の進め方,高齢者における看 護過程
第 4~6回	高齢者の生活機能を整える看護① 排泄機能障害	排泄機能, 尿失禁, 過活動膀胱 前立腺肥大, 排泄のアセスメント 排便機能, 排便障害
第7回	健康逸脱から回復を促す看護②	<b>冲长 净和影点 英田点份</b> 来
第8回	骨折・骨粗鬆症・廃用症候群の予防	骨折,骨粗鬆症,廃用症候群
第9回	高齢者の生活機能を整える看護②	高齢者の基本的活動
男 9 凹	転倒予防1	転倒のアセスメント
第 10 回	高齢者の生活機能を整える看護②	転倒発生時の対応, 転倒後のケア
舟10凹	転倒予防 2	再発防止
第 11 回	事例検討②	古粋老のマセフリン
第 12 回	事例検討③	高齢者のアセスメント
第 13 回	高齢者の生活機能を整える看護③ 感覚器	難聴,白內障
第 14 回	健康逸脱から回復を促す看護③ 疼痛, 掻痒感	痛みのアセスメント,皮膚掻痒症
第 15 回	健康逸脱から回復を促す看護④ 感染症	尿路感染症,疥癬,白癬,胃腸炎
第 16 回	治療を必要とする高齢者の看護① 薬物療法	薬物動態の変化、薬物有害事象
第 17 回	治療を必要とする高齢者の看護② 手術療法	早期離床、術後せん妄
第 18 回	治療を必要とする高齢者の看護③ リハビリテーション	ICF, 生活リハビリテーション

第 20 回 演習 A 摂食嚥下。 B 事例検討① 摂食嚥下:嚥下食、口腔ケア 第 21 回 B 事例検討④、A 摂食嚥下 事例検討:看護目標、看護計画 治療を必要とする高齢者の看護④ 入院環境・退院調整・退院支援 人院環境・退院調整・ 上院支援 大護、介護保険施設における看護、在宅療養 支援、介護負担 エンドオプライフケア 意思決定への支援、ACP 【講師】看護師 沼崎 美津子 先生 第 25 回 高齢者の災害看護 【講師】看護師 安井 清孝 先生 第 26 回 第 27 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の病態と診断・治療 [講師] 医師 川勝 忍 先生 第 29 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の歴史、認知症のアセスメント 第 30 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の看護のポイント、非薬物療法 第 31 回 事例検討⑤ 在宅療養中の高齢者のアセスメント 第 32 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の看護のポイント、非薬物療法 第 31 回 事例検討⑥ 在宅療養中の高齢者のアセスメント 第 32 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症高齢者と家族介護者の心理 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生 第 33 回	第 19 回	高齢者の生活機能を整える看護④	【講師】摂食嚥下障害看護認定看護師				
第 21 回       B 事例検討①、A 摂食嚥下       事例検討:看護目標,看護計画         第 22 回       治療を必要とする高齢者の看護① 入院環境・退院調整       入院環境,退院調整・退院支援         第 23 回       生活・療養の場における看護 施設・ 家族・介護者       介護保険施設における看護,在宅療養支援,介護負担         第 24 回       エンドオブライフケア         第 25 回       高齢者の災害看護       【講師】看護師 沼崎 美津子 先生         第 26 回       高次脳機能障害,失語症       【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生         第 28 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症①       認知症の病態と診断・治療         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の歴史,認知症のアセスメント認知症の歴史,認知症のアセスメント       認知症の歴史,認知症のアセスメント         第 30 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の看護のポイント,非薬物療法第31回事例検討⑤       在宅療養中の高齢者のアセスメント         第 31 回事例検討⑥       在宅療養中の高齢者のアセスメント         第 32 回認知機能障害のある高齢者の看護認知症の無力のよる高齢者の看護認知症高齢者と家族介護者の心理【講師】臨床心理士 加藤善和先生認知機能障害のある高齢者の看護       【講師】		摂食嚥下障害	早川 貴司 先生				
第 22 回 治療を必要とする高齢者の看護④ 入院環境・退院調整・退院支援 第 23 回 生活・療養の場における看護 施設・ 家族・介護者 エンドオブライフケア 意思決定への支援、ACP [講師] 看護師 沼崎 美津子 先生 第 25 回 高齢者の災害看護 [講師] 看護師 宏井 清孝 先生 第 26 回 第 27 回 高齢者の災害看護 [講師] 言語聴覚士 鈴木 千恵 先生 第 28 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症① [講師] 医師 川勝 忍 先生 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の歴史、認知症のアセスメント 第 30 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の不せスメント 第 30 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の不せスメント 第 31 回 事例検討⑤ 在宅療養中の高齢者のアセスメント 第 32 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症(事) 25 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の所能と家族介護者の心理 [講師] 臨床心理士 加藤 善和先生 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症(事) 26 回 [講師] 26 回 [ 27 回 [ 28 回 [ 28 回 ] 27 回 [ 28 回 ] 28 回 [ 28 回 ] 28 回 [ 28 回 ] 28 回 [ 28 回 ] 29 回	第 20 回	演習 A 摂食嚥下, B 事例検討④	摂食嚥下:嚥下食, 口腔ケア				
第 22 回 入院環境・退院調整 第 23 回 生活・療養の場における看護 施設・ 家族・介護者 第 24 回 エンドオブライフケア 第 24 回 エンドオブライフケア 第 25 回 高齢者の災害看護 第 26 回 第 27 回 第 28 回 第 29 回 第 29 回 第 30 回 第 30 回 第 31 回 事例検討⑤ 第 32 回 第 32 回 入院環境・退院調整・退院支援 た変援、介護負担 エンドオブライフケア 意思決定への支援、ACP 【講師】看護師 安井 清孝 先生 【講師】看護師 安井 清孝 先生 【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生 認知症の病態と診断・治療 【講師】医師 川勝 忍 先生 認知症の歴史、認知症のアセスメント 認知症の看護のポイント、非薬物療法 認知症の看護のポイント、非薬物療法 認知症の看護のポイント、非薬物療法 認知症の看護 認知症の看護のポイント、非薬物療法 認知症高齢者の不護 認知症高齢者の心理 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症( 認知症高齢者と家族介護者の心理 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生 【講師】	第 21 回	B 事例検討④, A 摂食嚥下	事例検討:看護目標,看護計画				
第 23 回       生活・療養の場における看護 施設・ 実族・介護者       介護保険施設における看護, 在宅療養 支援, 介護負担         第 24 回       エンドオブライフケア         第 25 回       高齢者の災害看護       【講師】看護師 沼崎 美津子 先生         第 26 回 第 27 回       高次脳機能障害, 失語症       【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生         第 28 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の病態と診断・治療 【講師】医師 川勝 忍 先生         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の歴史,認知症のアセスメント         第 30 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の看護のポイント,非薬物療法         第 31 回       事例検討⑤       在宅療養中の高齢者のアセスメント         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症( 認知症(       認知症高齢者と家族介護者の心理 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生         認知機能障害のある高齢者の看護 認知症(       【講師】	第 22 回		入院環境,退院調整・退院支援				
第 23 回       家族・介護者       支援, 介護負担         第 24 回       エンドオブライフケア         意思決定への支援, ACP       (講師】看護師 沼崎 美津子 先生         第 25 回       高齢者の災害看護       (講師】看護師 安井 清孝 先生         第 26 回       高次脳機能障害, 失語症       (講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生         第 28 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の病態と診断・治療       (講師】医師 川勝 忍 先生         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の歴史,認知症のアセスメント認知症のアセスメントの高齢者の不可を表える高齢者の看護認知症の看護のポイント,非薬物療法を認知症の看護のポイント,非薬物療法を認知症の看護のポイント,非薬物療法を定める高齢者の看護認知症高齢者と家族介護者の心理による。       (講師】臨床心理士 加藤 善和先生         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の看護による。       (講師】			○ ※ / □				
第 24 回 エンドオブライフケア	第 23 回						
第 24 回       エンドオブライフケア       意思決定への支援, ACP         【講師】看護師 沼崎 美津子 先生       第 25 回       高齢者の災害看護       【講師】看護師 安井 清孝 先生         第 26 回       高次脳機能障害, 失語症       【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生         第 28 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の病態と診断・治療       【講師】医師 川勝 忍 先生         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の歴史,認知症のアセスメント       認知症の歴史,認知症のアセスメント         第 30 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の看護のポイント,非薬物療法のおり、非薬物療法を認知症の高齢者のアセスメント       認知機能障害のある高齢者の看護認知症高齢者と家族介護者の心理         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症高齢者と家族介護者の心理       【講師】臨床心理士 加藤 善和先生         認知機能障害のある高齢者の看護認知機能障害のある高齢者の看護       【講師】		家族・介護者					
第 25 回高齢者の災害看護【講師】看護師 沼崎 美津子 先生第 26 回 第 27 回高次脳機能障害,失語症【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生第 28 回認知機能障害のある高齢者の看護 認知症①認知症の病態と診断・治療 【講師】医師 川勝 忍 先生第 29 回認知機能障害のある高齢者の看護 認知症②認知症の歴史,認知症のアセスメント第 30 回認知機能障害のある高齢者の看護 認知症③認知症の看護のポイント,非薬物療法第 31 回事例検討⑤在宅療養中の高齢者のアセスメント第 32 回認知機能障害のある高齢者の看護 認知症④認知症高齢者と家族介護者の心理 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生認知機能障害のある高齢者の看護 認知機能障害のある高齢者の看護【講師】			エンドオブライフケア				
第 25 回       高齢者の災害看護       【講師】看護師 安井 清孝 先生         第 26 回 第 27 回       高次脳機能障害,失語症       【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生         第 28 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の病態と診断・治療【講師】医師 川勝 忍 先生         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の歴史,認知症のアセスメント認知症のアセスメントの表面齢者の看護認知症③       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の看護のポイント,非薬物療法を表すの高齢者のアセスメントの高齢者のアセスメントの高齢者の不要である高齢者の看護認知症。         第 31 回       事例検討⑤       在宅療養中の高齢者のアセスメントの高齢者の不要である高齢者の看護認知症。         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症。       【講師】臨床心理士 加藤 善和先生         認知機能障害のある高齢者の看護認知能能障害のある高齢者の看護       【講師】	第 24 回	エンドオブライフケア	意思決定への支援,ACP				
第 26 回       高次脳機能障害,失語症       【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生         第 28 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の病態と診断・治療 【講師】医師 川勝 忍 先生         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の歴史,認知症のアセスメント         第 30 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の看護のポイント,非薬物療法         第 31 回       事例検討⑤         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症高齢者と家族介護者の心理 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生         認知機能障害のある高齢者の看護 認知症高齢者の看護 認知症高齢者と家族介護者の心理 【講師】			【講師】看護師 沼崎 美津子 先生				
第 27 回       高次脳機能障害,失語症       【講師】言語聴覚士 鈴木 千恵 先生         第 28 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の病態と診断・治療【講師】医師 川勝 忍 先生         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の歴史,認知症のアセスメント認知機能障害のある高齢者の看護認知症の看護のポイント,非薬物療法認知症③         第 30 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の看護のポイント,非薬物療法認知症③         第 31 回       事例検討⑤         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症高齢者と家族介護者の心理【講師】臨床心理士 加藤 善和先生認知機能障害のある高齢者の看護         認知機能障害のある高齢者の看護認知機能障害のある高齢者の看護       【講師】	第 25 回	高齢者の災害看護	【講師】看護師 安井 清孝 先生				
第 27 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の病態と診断・治療 【講師】医師 川勝 忍 先生         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の歴史,認知症のアセスメント         第 30 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症の看護のポイント,非薬物療法 認知症③         第 31 回       事例検討⑤         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護 認知症高齢者と家族介護者の心理 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生 認知機能障害のある高齢者の看護 【講師】	第 26 回						
第 28 回       認知症①       【講師】医師 川勝 忍 先生         第 29 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の歴史,認知症のアセスメント         第 30 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の看護のポイント,非薬物療法認知症③         第 31 回       事例検討⑤       在宅療養中の高齢者のアセスメント         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症高齢者と家族介護者の心理【講師】臨床心理士 加藤 善和先生         認知機能障害のある高齢者の看護認知性である高齢者の看護認知性であるる高齢者の看護。       【講師】	第 27 回	高次脳機能障害,矢語症	【講師】言語聴見士 鈴木 十恵 先生				
認知症①	# 00 E	認知機能障害のある高齢者の看護	認知症の病態と診断・治療				
第 29 回       認知症②         第 30 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症の看護のポイント,非薬物療法認知症の看護のポイント,非薬物療法を認知症③         第 31 回       事例検討⑤         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護認知症高齢者と家族介護者の心理【講師】臨床心理士 加藤 善和先生         認知機能障害のある高齢者の看護認知機能障害のある高齢者の看護       【講師】	男 28 凹	認知症①	【講師】医師 川勝 忍 先生				
認知症②   認知機能障害のある高齢者の看護   認知症の看護のポイント,非薬物療法   認知症③   事例検討⑤   在宅療養中の高齢者のアセスメント   認知機能障害のある高齢者の看護   認知症高齢者と家族介護者の心理   【講師】臨床心理士 加藤 善和先生   認知機能障害のある高齢者の看護   【講師】	<b>佐 20 日</b>	認知機能障害のある高齢者の看護	認知症の歴史, 認知症のアセスメント				
第 30 回       認知症③         第 31 回       事例検討⑤         第 32 回       認知機能障害のある高齢者の看護         認知症④       【講師】臨床心理士 加藤 善和先生         認知機能障害のある高齢者の看護       【講師】	男 29 凹	認知症②					
認知症③   第31回   事例検討⑤   在宅療養中の高齢者のアセスメント   認知機能障害のある高齢者の看護   認知症高齢者と家族介護者の心理   【講師】臨床心理士 加藤 善和先生   認知機能障害のある高齢者の看護   【講師】	<b>佐 20 日</b>	認知機能障害のある高齢者の看護	初からでの手並のよく、この上本地は				
第 32 回 認知機能障害のある高齢者の看護 認知症高齢者と家族介護者の心理 認知症④ 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生 認知機能障害のある高齢者の看護 【講師】		認知症③	認知症の看護のホイント, 非条物療法				
第 32 回 認知症④ 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生 認知機能障害のある高齢者の看護 【講師】	第 31 回	事例検討⑤	在宅療養中の高齢者のアセスメント				
認知症④ 【講師】臨床心理士 加藤 善和先生 認知機能障害のある高齢者の看護 【講師】	<b>年</b> 00 日	認知機能障害のある高齢者の看護	認知症高齢者と家族介護者の心理				
認知機能障害のある高齢者の看護 第33回	男 32 凹	認知症④	【講師】臨床心理士 加藤 善和先生				
第 33 回	th co -	認知機能障害のある高齢者の看護	【講師】				
認知症看護認定看護師田辺晃子先生	第 33 回	認知症⑤	認知症看護認定看護師田辺晃子先生				

区分名: 看護実践応用となる科目

科目名 (英語名称含む):精神の健康障害をもつ人の看護 (Psychiatric Nursing)

教員名:大川貴子・佐藤利憲・田村達弥・吾妻陽子

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度前期, 必修/選択:必修

授業形態:講義・演習 , 単位数:3単位 , 時間数:60時間

概要:精神の健康上の問題をもつ人に対してどのようにアプローチしたらよいかが考えられるよう、講義および演習を行なう。また、ライフサイクルの中で出会う様々なメンタルへルスの問題に関してもアプローチできるよう、グループワークを中心に展開していく。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

- 1. 精神の健康問題をもつ人が体験する世界について理解する。
- 2. 精神医療の歴史と法律および倫理について理解する。
- 3. 精神看護を実践するための枠組みを理解する。
- 4. 主要な精神疾患の病理・症状・看護のポイントについて理解する。
- 5. 地域で生活する精神障害者の支援方法を理解する。
- 6. セルフケアのアセスメントおよびケアプランの作成ができる。
- 7. メンタルヘルスの問題に関する心理社会的要因について理解する。
- 8. メンタルヘルスの問題を抱えた人への支援方法や社会資源を理解する。
- 9. メンタルヘルスの問題を抱えた当事者または家族の相談に応じるために求められる技術を習得する。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

		科目達成レベル					
	1. プロフェッショナル						
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	•	実践の基盤と なる知識を示 せることが単 位認定の要件 である		
2)	2) 装・品位/	1	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	0	態度、習慣、価 値観を模擬的		
]		2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応 し、積極性や誠実性を示すことができる。	)	に示せること		

			自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す	]	が単位認定の		
		3	ことができる。		要件である		
					態度、習慣、価		
					値観を模擬的		
3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬   意を払って接することができる。	0	に示せること		
			总を払うに抜りることができる。 		が単位認定の		
					要件である		
		( <u>1</u> )	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守		実践の基盤と		
	法令等の規	(I)	り、人々のプライバシーを尊重できる。		なる知識を示		
4)	佐下寺の焼 範遵守		各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守	•	せることが単		
	車(1) <del>  </del> 八	2	存種伝ア、人子等関連的機関の規定を遵守		位認定の要件		
			9 S C C B C C S S S		である		
			2. 生涯学習				
看護専	門職者として	優れ	た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び	関連の原	ない分野の科学		
的情報	を収集・評価	し、	論理的思考の継続的改善を行うことができる	5.			
		(1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献				
			することの重要性を理解できる。				
		2	看護学に関する情報を、目的に合わせて		甘加しよって		
			効率的に入手することができる。		基盤となる		
	占 □ 記 ▽ 1、		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己		態度、習慣		
1)	自己啓発と	3	評価を行い、自身で責任を持って考え、	0	スキルを示		
	自己鍛錬		行動できる。		せることが		
			自らのキャリアをデザインし, 自己主導		単位認定の		
			型学習(自身の疑問や知識・技能不足を		要件である		
		4	認識し、自ら必要な学習)により、常に				
			自己の向上を図ることができる。				
	3. 人間関係の理解とコミュニケーション						
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、							
互いの	互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。						
	看護を必要	(1)	人々の生命、健康、生活について幅広い関		基盤となる		
1)	有 護 を 必 安 と する 人々	<u> </u>	心を持ち、深く洞察することができる。		態度、スキ		
1)		<u></u>	人々の社会的背景を理解して尊重するこ		ルを示せる		
1	とのコミュ	のコミュ ②	とができる。		ことが単位		

	ニケーショ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ		認定の要件
	ン	3	ケーションスキルを身につけ、実践でき		である
			る。		
		(4)	望ましい健康行動がとれるよう人々の意		
		4)	思決定を支援することができる。		
		(1)	人々の健康を支えるチームの一員に看護		
		1)	の立場から参加し、他職種と協働できる。		
	チームでの		チーム医療におけるリーダーシップの意		
		2	義と看護専門職者が果たす役割について		実践の基盤
			理解することができる。		となる知識
2)	コミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信	•	を示せるこ
2)	ーション	(3)	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		とが単位認
	7 3 7	0	責任を果たす重要性を理解することがで		定の要件で
			きる。		ある
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療		
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する		
			重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)		
		1	感性を高める科目		
1)	豊かな感性 と倫理観を	2	倫理性を高める科目		習得の機会
1)	もつ看護専門職者	3	論理的思考能力を高める科目		がない
		4	表現力を培う科目		
2)	創造性豊か な看護専門 職者	1	社会の理解を深める科目		模擬的な問 題解決に知
		2	人間の理解を深める科目	0	識を応用す ることがで

ı	l	i	Γ	İ	]
		3	人間の身体機能と病態を理解する科目		きることが 単位認定の
		4	看護の基本となる科目		要件である
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対	1)	看護実践の応用となる科目		模擬的な問 題解決に知
3)	応する実践 能力を備え	2	看護の実践	0	識を応用す ることがで
	た看護専門職者	3	看護を統合する科目		きることが 単位認定の 要件である
			5. 看護の実践		
人々が		ゆる		ニーズにま	<u></u> 基づいた看護
	エロテンのう することがで	_	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	, ,,,,,,,	
			人々の健康レベルを、成長発達や日常生活		
		1	を取り巻く環境の観点で捉えることがで		
			きる。		
			人々が活用できる地域の社会資源、保健・		
		2	医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に		
			ついて説明できる。		
			人々の健康に関するニーズを明らかにす		模擬的看護
	人々のニー	3	るために、必要な情報を収集し、アセスメ		を実践でき
1	ズに基づい		ントすることができる。		ることが単
1)	た看護の実		健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計	O	位認定の要
	践	(4)	画することができる。		件である
		(F)	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健		
		5	康段階に応じた看護を実践できる。		
			看護の対象となる人々、保健医療福祉等の		
		6	専門職と協働して、人々がその健康問題を		
			解決することを支援することができる。		
		(7)	看護実践を評価し、計画の修正を図ること		
			ができる。		

		土	地域の人	々の健康問題の解決のために、既			
		7	字の社会	資源の改善や新たな社会資源の			
		8 3	<b>昇発、フォ</b>	トーマル・インフォーマルなサー			
		ŀ	ごスのネ	ットワーク化、システム化の重要			
		性	生を説明で	できる。			
6. 地域社会への貢献							
(1)	地域の特性を	理解し、	人々が信	主み慣れた地域や家庭で安心して	生活でき	るよう、看護	
専門職	者としての役	割を果	たすこと	ができる。			
(2)	福島での大規	<b>摸複合</b>	災害から	、災害時に必要となる種々の連携	について	学び、説明で	
きる。							
		土	也域の特	性やそこで暮らす人々の生活状			
	地域の人々	1 2	元を理解	し、人々が抱える健康問題と関連		理解と計画	
1)	の生命と暮	9	よる要因 <sup>5</sup>	や生活背景について説明できる。		立案が単位	
1)	らしを守る		(々とと)	もに、安心して生活できる地域づ		認定の要件	
	りしをする	2	くりを考え	え、そのために協働する看護専門		である	
		耶	戦者の役割	割について説明できる。			
		礻	晶島でおこ	こった大規模複合災害を学び、必			
İ		1 3	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす				
		Z	る各種連携の実際を理解し、説明できる。		_		
	短白の巛字	质质	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的			佐伊の	
2)	福島の災害から学ぶ		に学び、適切に説明できる。			修得の機会がない	
	かり子か	方	女射線 (お	および災害) に対する地域住民の		1717 V	
		3	下安が理解	解でき、社会・地域住民とのリス			
			ウコミュ	ニケーションについて説明でき			
		Ž	る。				
7. 看護学発展への貢献							
看護学	領域での研究	の意義	や、科学	的・論理的思考に基づいて看護	学上の課題	<b>夏を解決する</b>	
ことの	重要性を理解	できる	0				
				看護実践を通して、看護学上の		11. 画 1. 七安	
			1	課題を考えることができる。		計画と立案が単位認定	
1)	科学的・論理	里的思考	÷	科学的思考に基づいて看護学	0	が単位認定の悪性でな	
			2	上の課題を解決することの重		の要件であ	
l	l			i	ĺ	る	

要性を説明できる。

る

テキスト:指定しない

参考書: 開講時に提示する

成績評価方法:最終試験:60%

事例展開:20%

メンタルヘルスに関するアプローチ (グループワーク・発表)の取組み:20%

(他グループの学生からの評価:10%・教員からの評価:10%)

その他(メッセージ等): 精神の健康問題について、時には自分にひきつけ、時には自分と距離をおいて考えていきましょう。精神看護の奥の深さを感じとってもらえると嬉しいです。

# 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション	
第2回	精神の健康問題をもつ	ピアサポーターによるリカバリーストーリーの発表
	人の理解	
第3回	精神の健康問題をもつ	ピアサポーターによるリカバリーストーリーについ
	人の理解	てグループワーク
第4回	精神医療の歴史	社会的背景・わが国の精神保健医療福祉の現状
第5回	精神医療における倫理	精神保健に関する法律・人権擁護
第6回	精神看護の枠組み	セルフケア・リカバリー・ストレングス・対人関係論
第7回	セルフケアに焦点をあ	事例に関する疑問・質問についてグループワーク
	てた事例展開①	
第8回	精神療法および心理的	精神療法・心理社会的療法
	療法と看護	
第9回	精神科における薬物療	向精神薬・服薬管理
	法と看護	
第10回	統合失調症患者へのア	統合失調症について疾患・治療の理解
第11回	プローチ	
第12回	セルフケアに焦点をあ	セルフケア要素のアセスメントについてグループワ
	てた事例展開②	ーク
第13回	セルフケアに焦点をあ	セルフケア要素のアセスメントの解説
	てた事例展開③	
第 14 回	統合失調症患者へのア	統合失調症患者への代表的なアプローチ方法
第 15 回	プローチ	
第 16 回	セルフケアに焦点をあ	アセスメントのまとめと援助の方向性についてグル
第17回	てた事例展開④	ープワーク

第 18 回	地域で生活する精神障	訪問看護・ACT・アウトリーチ・精神保健福祉制度
第 19 回	害者へのアプローチ	
第 20 回	セルフケアに焦点をあ	アセスメントのまとめと援助の方向性についてグル
	てた事例展開⑤	ープワークの解説
第 21 回	セルフケアに焦点をあ	必要と考えられる具体的な援助についてグループワ
	てた事例展開⑥	ーク
第 22 回	セルフケアに焦点をあ	必要と考えられる具体的な援助の解説
	てた事例展開⑦	
第 23 回	地域で生活する精神障	訪問看護およびアウトリーチの実際
	害者へのアプローチ	
第 24 回	地域で生活する精神障	グループワーク
	害者へのアプローチ	
第 25 回	気分障害患者へのアプ	気分障害(うつ病・双極性障害)患者の理解・アプロ
第 26 回	ローチ	ーチ方法
第 27 回		
第 28 回	自閉症スペクトラム患	自閉症スペクトラム患者の理解・アプローチ方法
	者へのアプローチ	
第 29 回	パーソナリティ障害患	パーソナリティ障害患者の理解・アプローチ方法
	者へのアプローチ	
第 30 回	アルコール依存症患者	アルコール依存症患者の理解・アプローチ方法
	へのアプローチ	
第 31 回	メンタルヘルスに関す	グループワーク
~	るアプローチ	
第 36 回		
第 37 回	メンタルヘルスに関す	グループ毎の発表
$\sim$	るアプローチ	
第 44 回		
第 45 回	メンタルヘルスに関す	教員の講評
	るアプローチ	
	セルフケアに焦点をあ	事例展開の解説
	てた事例展開	

区分名:看護を統合する科目

科目名 (英語名称含む): 看護研究方法論とその活用

(Nursing research methodology and application)

教員名:篠原好江

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度 前期, 必修/選択: 必修選択

授業形態:講義,単位数:2単位,時間数:60時間

概要:看護研究に用いられる方法論に関する基礎的な知識を学び、看護の対象、看護者、対象と看護者との相互に関する疑問を探求し、看護実践において看護研究を活用できる能力を培う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

- 1) 看護研究の意義および目的について学ぶ。
- 2) 研究設計と研究方法について学習する。
- 3) 看護研究における倫理的配慮について理解する。
- 4) 研究論文の吟味について学習する。
- 5) 研究論文の活用について学ぶ。

#### 行動目標:

- 1) 看護研究の意義および目的が説明できる。
- 2) 研究設計に基づいた質的研究方法について述べることができる。
- 3) 研究設計に基づいた量的研究方法について述べることができる。
- 4) 看護研究における倫理的配慮について理解することができる。
- 5) 看護論文の内容を理解し、それを要約することができる。
- 6) 研究論文の長所、短所を吟味することができる。
- 7) 文献の種類、論文としての構成について説明できる。
- 8) 文献を検索することができる。
- 9) 研究論文の知見の看護実践への活用について考えることができる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

# 学習アウトカム 科目達成レベル 1. プロフェッショナル 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、 行動できる。

	I	ı		1	į i	
		(1)	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ		態度、習慣、	
		•	れに基づき、考え、行動できる。		価値観を模擬	
1)	看護倫理		生命の尊厳や人権について理解し、人々の	$\circ$	的に示せるこ	
		2	意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		とが単位認定	
		ことができる。		の要件である		
		(I)	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣		や 中 カガ hm	
	22 m	1	い、態度をとることができる。		態度、習慣、	
0)	習慣・服	(A)	時間を厳守し、何事においても真摯に対応		価値観を模擬	
2)	装・品位/	2	し、積極性や誠実性を示すことができる。	0	的に示せるこ	
	礼儀		自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す		とが単位認定	
		3	ことができる。		の要件である	
					態度、習慣、	
			ルゼ)マウハの畑は知え 4m1 _ , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		価値観を模擬	
3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。		的に示せるこ	
					とが単位認定	
					の要件である	
			個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守		態度、習慣、	
	<b>壮人炊る坦</b>	1	り、人々のプライバシーを尊重できる。		価値観を模擬	
4)	法令等の規	道等の規 ②	<b>友在冲入 1.坐然用************************************</b>		的に示せるこ	
	1 車 遵 寸		2	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守		とが単位認定
			することができる。		の要件である	
			2. 生涯学習			
看護専	 :門職者として	<b>優</b> れ	た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及びD	関連の	広い分野の科学	
			論理的思考の継続的改善を行うことができる			
			看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献			
		1	することの重要性を理解できる。			
			看護学に関する情報を、目的に合わせて			
		2	効率的に入手することができる。		ada nila an isang	
			独立自尊の気風を養い、自己管理・自己		実践できる	
1)	自己啓発と	3	評価を行い、自身で責任を持って考え、	0	ことが単位	
	自己鍛錬		行動できる。		認定の要件	
			自らのキャリアをデザインし、自己主導		である	
			型学習(自身の疑問や知識・技能不足を			
		(4)	認識し、自ら必要な学習)により、常に			
			自己の向上を図ることができる。			
l	I	l		<u> </u>		

# 3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

			人々の生命、健康、生活について幅広い関		
		1	心を持ち、深く洞察することができる。		
	看護を必要	2	人々の社会的背景を理解して尊重するこ		佐伊の地へ
	とする人々	(4)	とができる。		修得の機会があるが、
1)	とのコミュ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ	Δ	単位認定に
	ニケーショ	3	ケーションスキルを身につけ、実践でき		関係ない
	ン		る。		
		<b>4</b> )	望ましい健康行動がとれるよう人々の意		
		4	思決定を支援することができる。		
		( <u>1</u> )	人々の健康を支えるチームの一員に看護		
		1)	の立場から参加し、他職種と協働できる。		
			チーム医療におけるリーダーシップの意		
		2	義と看護専門職者が果たす役割について		
	チームでの		理解することができる。		修得の機会
2)	コミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信		があるが、
2)	ーション	(3)	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての	Δ	単位認定に
	7 3 7		責任を果たす重要性を理解することがで		関係ない
			きる。		
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療		
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する		
			重要性を理解することができる。		

# 4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)		
	豊かな感性	1	感性を高める科目		修得の機会がある
1)	と倫理観を もつ看護専	2	倫理性を高める科目	Δ	云がのる が、単位認 定に関係な
	門職者	3	論理的思考能力を高める科目		たに関係ない

		4	表現力を培う科目		
		1)	社会の理解を深める科目		
	会心生 44 曲 4、	2	人間の理解を深める科目		
2)	創造性豊か な看護専門 職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	_	修得の機会 がない
	「「「「」」	4	看護の基本となる科目		
		(5)	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対応する実践	1	<del>- 看護実践の応用となる科目</del>		模擬的な場 に知識を応
3)	心りる美感 能力を備え た看護専門	2	看護の実践	0	用できるこ とが単位認
	職者	3	看護を統合する科目		定の要件で ある
			5. 看護の実践		
			場において、あらゆる健康レベルの人々のこ	ニーズに基	<b>基づいた看護</b>
ど美践	することがで 	さる			
			人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで		
		1			
			きる。   人々が活用できる地域の社会資源、保健・		
		2	医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に		実践の基盤
	人々のニー	2	広原・福祉制度 \ 関係機関の機能と建物に   ついて説明できる。		となる知識
1)	ズに基づい		人々の健康に関するニーズを明らかにす		を示せるこ
1 /	た看護の実	(3)	るために、必要な情報を収集し、アセスメ		とが単位認
	践		ントすることができる。		定の要件で
		_	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計		ある
		4	画することができる。		
			安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健		
		(5)	康段階に応じた看護を実践できる。		

6	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。	
7	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。	
8	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	

# 6. 地域社会への貢献

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連		修得の機会	
		2	する要因や生活背景について説明できる。 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門 職者の役割について説明できる。	Δ	があるが、 単位認定に 関係ない	
	福島の災害から学ぶ	1)	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。		修得の機会	
2)			2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的 に学び、適切に説明できる。 放射線(および災害)に対する地域住民の	Δ	があるが、 単位認定に
		3	不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		関係ない	

# 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

		1	看護実践を通して、看護学上の 課題を考えることができる。		実践できることが単位	
1)	科学的·論理的思考	2	科学的思考に基づいて看護学 上の課題を解決することの重	0	認定の要件	
			要性を説明できる。		である	

テキスト:指定しない 参考書: 講義中に示す

成績評価方法:講義(50点/課題(適宜)および出席状況), ゼミ(50点/レポート30点, 参

加度 20 点)

その他(メッセージ等): 将来, 積極的に研究に取り組んでいくためにもこの科目で看護における研究の基礎を学びましょう。自己学修において沢山の論文に触れ, また, 課題学習やゼミを通して「わかった」経験を増やしていきましょう。

\*講義内容・予定は変更することがあります。

#### 授業内容(学習項目)

回数	項目	内容 (キーワード等)
勞 1 同	オリエンテーション	看護における研究の意義・目的
第1回	看護研究とは	看護研究の定義 研究と看護実践
第2回	看護研究の構成と論文	看護研究の構成 論文の種類
<b>第</b> Δ 凹	有暖切元♥州時以と冊文	論文の構成 論文の書き方
第3回	演習:文献検索の方法と実際①	文献検索と文献検討 検索方法
<b>第 9</b> 四	(関ロ・文献快楽の力伝と美味①	データベース 文献カードの目的と方法
第4回	   演習:文献検索の方法と実際②	リサーチクエスチョンをもとに文献カー
	傾目・文献(検系の方伝と天际な	ドの作成
第5回	   研究過程:研究目的と研究方法	研究目的 研究方法(デザイン)と種類,
労 り 凹	例元過程,例元日刊C例元//仏	研究目的に応じた研究デザイン
第6回	研究計画書	研究計画書の意義と構成
<b>第</b> 0回	切元可興音 	研究における倫理 利益相反
第7回	量的研究	量的研究の種類と研究方法 量的研究の
<b>为</b> 【 凸	里中分別	プロセス 量的研究のデータ収集と分析
第8回	質的研究	質的研究の種類と研究方法 質的研究の
77 U E	(유비기에 기·	プロセス 質的研究のデータ収集と分析
第9回	研究論文のクリティーク	研究論文のクリティークとは 目的と方
カ 3 凹		法 クリティーク・ガイドライン

		研究成果の公表方法 看護実践への活用
第 10 回	研究結果・成果の活用	量的研究成果の実際
		質的研究成果の実際
第 11 回		
第 12 回	研究論文のクリティークのゼミ	
第 13 回	(それぞれの看護学部門ごとに	研究論文のクリティーク
第 14 回	開講する)	
第 15 回		

区分名:看護実践の応用となる科目

科目名 (英語名称含む): 助産学 I Midwifery I

教員名:篠原好江、渡邉一代、紺野 愛

開講年次:3年次,学期:2020年度後期,必修/選択:選択授業形態:講義、演習,単位数:単位2,時間数:30時間(23回)

### 概要:

助産の基本理念を理解し、助産学の展開について考える。具体的には、助産過程、助産診断、母子保健の動向および関係法規を学習し、助産師の役割と責任について考える。 助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

# 学習目標:

- 1) 助産の基本理念を理解し、助産学の展開について考える。
- 2) 助産過程及び助産診断の目的を理解し、その意義を学ぶ。
- 3) 助産及び母子保健の変遷を理解する。
- 4) 助産師の役割と責任を理解する。
- 5) 助産及び助産師のあり方を考察する。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム 科目達成レベル							
	1. プロフェッショナル						
看護専	看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、						
行動で	行動できる。						
1)	看護倫理		生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ	0	看護実践の場		
1)	1	看護倫理 (1)	れに基づき、考え、行動できる。		で看護職者と		

			生命の尊厳や人権について理解し、人々の		しての態度、習慣、価値感
		2	意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		を示せること
			ことができる。		が単位認定の
					要件である
		(1)	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣		
	   習慣・服		い、態度をとることができる。		
2)	装・品位/	2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応	(i)	,,
4)	礼儀		し、積極性や誠実性を示すことができる。		<i>"</i>
	个口我	(a)	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す		
		3	ことができる。		
o )			他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬		
3)	対人関係	1	意を払って接することができる。	0	"
			個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守		
	法令等の規	1	り、人々のプライバシーを尊重できる。		
4)	範遵守		各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守	0	"
		2	   することができる。		
		ı	2. 生涯学習		
看護専	再門職者として	優れ	た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び	関連の	広い分野の科学
的情報	<b>みを収集・評価</b>	し、	論理的思考の継続的改善を行うことができる	)。	
		(1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献		
		(I)	することの重要性を理解できる。		
		(A)	看護学に関する情報を、目的に合わせて		
		2	効率的に入手することができる。		は明っよっ
	白己政窓と		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己		実践できる

行動できる。 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を

4

自己啓発と

自己鍛錬

認識し、自ら必要な学習)により、常に 自己の向上を図ることができる。

評価を行い、自身で責任を持って考え、

ことが単位

認定の要件

である

# 3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

	1 1400日	4	表現力を培う科目		である
1 )	もつ看護専 門職者	3	論理的思考能力を高める科目		ことが単位 認定の要件
1)	豊かな感性と倫理観を	2	倫理性を高める科目		場に知識を 応用できる
		1	感性を高める科目		模擬的な
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)		
看護専	門職者の基盤	とな	る知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護	を の実践に	応用できる。
			4. 知識とその応用		
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。		
	チームでの - コミュニケ		人々に必要な看護が継続されるよう、医療		
			責任を果たす重要性を理解することがで きる。		関係ない
		·	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		単位認定に
2)			チームメンバーに対して、尊敬、共感、信	$\triangle$	があるが、
				理解することができる。	
		2	義と看護専門職者が果たす役割について		
			の立場から参加し、他職種と協働できる。 チーム医療におけるリーダーシップの意	-	
		1	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他際籍しぬ働のさる		
		4)	思決定を支援することができる。		
			望ましい健康行動がとれるよう人々の意		件である
	ン		3.		位認定の要
1)	ニケーショ	(3)	を		ることが単
1)	とする人々 とのコミュ		とができる。 看護専門職者としてふさわしいコミュニ		キルを示せ
	看護を必要	2	人々の社会的背景を理解して尊重するこ		る態度、ス
			心を持ち、深く洞察することができる。		基礎とな
		( <u>1</u> )	人々の生命、健康、生活について幅広い関		

	1									
		1	社会の理解を深める科目							
	会心生 神 よ、	2	人間の理解を深める科目		模擬的な場に知識を応					
2)	創造性豊かな看護専門	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	0	用できるこ とが単位認					
	職者	4	看護の基本となる科目		定の要件で ある					
		(5)	看護実践の基盤となる科目							
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目		模擬的な場 に知識を応					
3)	応する実践能力を備え	2	看護の実践	0	用できるこ とが単位認					
	た看護専門職者	3	看護を統合する科目		定の要件である					
		•	5. 看護の実践							
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護						
			,							
		1	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。							
		1	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで		模擬的な場					
1)	人々のニー ズに基づい た看護の実	1	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に	0	に知識を応 用できるこ					
1)	ズに基づい	2	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメ	0	に知識を応					
1)	ズに基づい た看護の実	(1)	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計	0	に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で					
1)	ズに基づい た看護の実	<ol> <li>(1)</li> <li>(2)</li> <li>(3)</li> <li>(4)</li> </ol>	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健	0	に知識を応 用できるこ とが単位認 定の要件で					

		i		1	•
		(7)	看護実践を評価し、計画の修正を図ること		
		•	ができる。		
			地域の人々の健康問題の解決のために、既		
			存の社会資源の改善や新たな社会資源の		
		8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー		
			ビスのネットワーク化、システム化の重要		
			性を説明できる。		
			6. 地域社会への貢献		
(1)	地域の特性を	理解	し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して	 生活でき	 るよう、 看護
			果たすことができる。		
			合災害から、災害時に必要となる種々の連携	について	学び、説明で
、2 <i>/</i> きる。	IШШ, С • > ) С/96	大  久	THE THE STATE OF THE SECTION OF THE		1 0 ( 100.01 0
			地域の特性やそこで暮らす人々の生活状		実践の基盤
		1	況を理解し、人々が抱える健康問題と関連		となる知識
	地域の人々		   する要因や生活背景について説明できる。	_	を示せるこ
1)	の生命と暮		人々とともに、安心して生活できる地域づ		とが単位認
	らしを守る	2	  くりを考え、そのために協働する看護専門		定の要件で
			職者の役割について説明できる。		ある
			福島でおこった大規模複合災害を学び、必		
		1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす		
			る各種連携の実際を理解し、説明できる。		
	短点の似皮		放射線災害の実際を知り、放射線を科学的		佐伊の様
2)	福島の災害	2	に学び、適切に説明できる。	_	修得の機
	から学ぶ		放射線 (および災害) に対する地域住民の		会がない
			不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		
		3	クコミュニケーションについて説明でき		
			る。		
			7. 看護学発展への貢献		

看護実践を通して、看護学上の

修得の機

会があるが

 $\triangle$ 

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する

ことの重要性を理解できる。

科学的• 論理的思考

1)

	科学的思考に基づいて看護学	単位認定に
2	上の課題を解決することの重	関係ない
	要性を説明できる。	

#### テキスト:

工藤美子編: 助産師基礎教育テキスト第1巻 2020 年版 日本看護協会出版会

吉沢豊予子編:助産師基礎教育テキスト第2巻 2020 年版 日本看護協会出版会

成田伸編:助産師基礎教育テキスト第3巻 2020年版 日本看護協会出版会

堀内成子編:助産学講座5 助産診断・技術学 I 医学書院. 2020

横尾京子編: 助産学講座6助産診断・助産技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院. 2020

参考書:

成績評価方法:課題発表とレポート

その他 (メッセージ等): 助産とは? 助産学とは? 助産師とはどんな仕事をする人で、どんな役

割があるのでしょうか? ここでは助産師の基本から学習します。

#### 授業内容(学習項目) (23回)

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	助産の概念	助産とは、助産の対象
第2回	助産師の専門職性と業務	助産師とは、助産師業務、助産師の倫理綱領
第3回	助産師の専門職性と業務	助産師とは、助産師業務、助産師の倫理綱領
第4回	助産師と倫理	助産師の倫理綱領
第5回	助産学研究	助産師の倫理綱領、助産実践と研究
第6回	人間のセクシュアリティ	人間の性と基本的人権、価値と多様性
第7回	助産過程と助産診断	助産過程、助産診断と診断類型
第8回	助産過程と助産診断	助産過程、助産診断と診断類型
第9回	助産過程と助産診断	妊娠期・胎児期の助産過程
第 10 回	助産過程と助産診断	分娩期の助産過程
第11回	助産過程と助産診断	産褥期・新生児期の助産過程
第 12 回	助産過程と助産診断	女性のライフサイクルにおける助産過程
第13回	日本と諸外国における助産の変遷	課題発表
第 14 回	日本と諸外国における助産の変遷	課題発表
第 15 回	日本と諸外国における助産の変遷	課題発表
第 16 回	日本と諸外国における助産教育	課題発表
第17回	日本と諸外国における助産教育	課題発表

第 18 回	日本と諸外国における助産教育	課題発表
第19回	母子保健の動向と関係法規	課題発表
第 20 回	母子保健の動向と関係法規	課題発表
第 21 回	母子保健の動向と関係法規	課題発表
第 22 回	妊産婦を対象としたコミュニ	課題発表
	ケーション技術	
第 23 回	妊産婦を対象としたコミュニ	課題発表
	ケーション技術	

区分名:看護実践の応用となる科目

科目名(英語名称含む):助産学Ⅲ MidwiferyⅢ

教員名:渡邉一代、森美由紀、非常勤講師

開講年次: 3年次, 4年次 学期: 2020年度 前期, 必修/選択:選択

授業形態:講義、演習,単位数:2単位,時間数:60時間(45回)

#### 概要:

分娩を終了した女性および新生児の健康を診断し必要なケアを提供するとともに、母親と 新生児を含む家族が新しい役割取得ができるよう援助するために、診断およびケア技術を 学習する

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

- 1. 産褥期の助産診断と支援
  - 1) 産褥期の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。
  - 2) 産褥ケアに求められる実践能力を理解する。
  - 3) 産褥期の助産診断の視点を理解する。
  - 4) 産褥期の診断に必要な情報と診査方法を理解する。
  - 5) 褥婦と家族への支援を考える。
  - 6) 産褥期の助産診断を展開する。
- 2. 新生児の助産診断と支援
  - 1)新生児期の助産診断を理解する。
  - 2) 新生児期の助産診断における助産師の役割を理解する。
  - 3) 新生児期の生理的適応過程のアセスメントの視点とケアを理解する。
  - 4) 新生児期の助産過程を展開する。
- 3. 産褥期の異常
  - 1) 産褥期に起こりうる異常の病態、診断、治療について理解する。
- 4. 女性のライフサイクル
  - 1) ライフサイクル各期における女性の身体的、心理的、社会的特徴を理解する。
  - 2) ライフサイクル各期における助産診断の視点と助産師の役割を理解する。
  - 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツを基本とした援助の方法が考えられる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、						
行動で	きる。					
		(1)	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ		看護実践の場	
		1	れに基づき、考え、行動できる。		で看護職者と	
					しての態度、	
1)	看護倫理		生命の尊厳や人権について理解し、人々の	0	習慣、価値感	
		2	意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		を示せること	
			ことができる。		が単位認定の	
					要件である	
			状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣			
	77 km - 111	1	い、態度をとることができる。			
0)	習慣・服		時間を厳守し、何事においても真摯に対応			
2)	装・品位/	2	し、積極性や誠実性を示すことができる。	0	II	
	礼儀	<u></u>	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す			
		3	ことができる。			
3)	対人関係	(1)	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬	0	II.	
ડ)	3) 以八渕栄	対床 ①	意を払って接することができる。	0	"	
	法令等の規 範遵守	1	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守			
4)			り、人々のプライバシーを尊重できる。	©	<i>II</i>	
4)		(2)	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守	0)	,,	
		2	することができる。			
			2. 生涯学習			
看護専	門職者として	優れ	た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関	関連の原	広い分野の科学	
的情報	を収集・評価	L.	論理的思考の継続的改善を行うことができる	) <sub>0</sub>		
		(1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献			
		1	することの重要性を理解できる。			
		2)	看護学に関する情報を、目的に合わせて			
		(2)	効率的に入手することができる。		実践できる	
	自己啓発と		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己		ことが単位	
1)	自己鉛錬	3	評価を行い、自身で責任を持って考え、	0	認定の要件	
			行動できる。		である	
			自らのキャリアをデザインし, 自己主導		(4)	
		(4)	型学習(自身の疑問や知識・技能不足を			
		4	認識し、自ら必要な学習)により、常に			
			自己の向上を図ることができる。			

# 3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

		(1)	人々の生命、健康、生活について幅広い関		
		1)	心を持ち、深く洞察することができる。		#**** 1. よ <b>、</b>
	看護を必要	<u></u>	人々の社会的背景を理解して尊重するこ		基礎となった。
	とする人々	2	とができる。		る態度、ス
1)	とのコミュ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ	$\circ$	キルを示せ
	ニケーショ	3	ケーションスキルを身につけ、実践でき		ることが単
	ン		る。		位認定の要
			望ましい健康行動がとれるよう人々の意		件である
		4	思決定を支援することができる。		
		(1)	人々の健康を支えるチームの一員に看護		
		1)	の立場から参加し、他職種と協働できる。		
			チーム医療におけるリーダーシップの意		
		2	義と看護専門職者が果たす役割について		
	チームでの		理解することができる。		修得の機会
2)	コミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信	$\triangle$	があるが、
2)		(3)	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		単位認定に
	ーション	(3)	責任を果たす重要性を理解することがで		関係ない
			きる。		
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療		
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する		
			重要性を理解することができる。		

# 4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)		
	豊かな感性	1	感性を高める科目		模擬的な 場に知識を
1)	と倫理観を もつ看護専	2	倫理性を高める科目	0	応用できる ことが単位
	門職者	3	論理的思考能力を高める科目		認定の要件である

		4	表現力を培う科目			
		1	社会の理解を深める科目			
		2	人間の理解を深める科目		模擬的な場 に知識を応	
2)	創造性豊かな看護専門	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	0	用できるこ とが単位認	
	職者	4	看護の基本となる科目		定の要件で ある	
		5	看護実践の基盤となる科目			
	ニーズに対 応する実践 3) 能力を備え た看護専門	1	看護実践の応用となる科目		模擬的な場 に知識を応	
3)		全備え ② 看護の実践		0	用できるこ とが単位認	
	職者	3	看護を統合する科目		定の要件で ある	
		5. 看護の実践				
	生活するあら		場において、あらゆる健康レベルの人々のこ。	ニーズに碁	基づいた看護	
			人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。			
	人々のニー ズに基づい た看護の実 践	2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		模擬的な場に知識を応	
1)		3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	0	用できるこ とが単位認 定の要件で	
		4	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		ある	
		5	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。			

看護の対象となる人々、保健医療福祉等の	
専門職と協働して、人々がその健康問題を	
解決することを支援することができる。	
看護実践を評価し、計画の修正を図ること	
ができる。	
地域の人々の健康問題の解決のために、既	
存の社会資源の改善や新たな社会資源の	
開発、フォーマル・インフォーマルなサー	
ビスのネットワーク化、システム化の重要	
性を説明できる。	
))	専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要

# 6. 地域社会への貢献

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

地域の人々		1)	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状 況を理解し、人々が抱える健康問題と関連 する要因や生活背景について説明できる。		修得の機会
1) の生命と暮 - らしを守る	2	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門 職者の役割について説明できる。	_	がない	
		1)	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。		
2)	福島の災害	2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的 に学び、適切に説明できる。	_	修得の機会がない
	から学ぶ	3	放射線(および災害)に対する地域住民の 不安が理解でき、社会・地域住民とのリス クコミュニケーションについて説明でき る。		⊠N,4,4°Λ,

# 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

		1	看護実践を通して、看護学上の 課題を考えることができる。		修得の機	
1)	科学的・論理的思考	2	科学的思考に基づいて看護学 上の課題を解決することの重	Δ	会があるが   単位認定に   関係ない	
			要性を説明できる。		関係ない	

#### テキスト:

吉沢豊予子編: 助産師基礎教育テキスト第2巻 2020 年版 日本看護協会出版会 森恵美編: 助産師基礎教育テキスト第4巻 2020 年版 日本看護協会出版会

町浦美智子編:助産師基礎教育テキスト第5巻 2020 年版 日本看護協会出版会

横尾京子編:助産師基礎教育テキスト第6巻 2020 年版 日本看護協会出版会

小林康江編:助産師基礎教育テキスト第7巻 2020 年版 日本看護協会出版会

堀内成子編:助産学講座5助産診断・技術学I 医学書院.2020

横尾京子編:助産学講座6助産診断・助産技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 医学書院. 2020

我部山キョ子他編: 助産学講座7助産診断・技術学II[2]分娩期・産褥期 医学書院. 2020 横尾京子編: 助産学講座8助産診断・技術学II[3]新生児期・乳幼児期 医学書院. 2020

成績評価方法:課題提出・発表、演習、筆記試験

# 授業内容(学習項目)

#### 1. 産褥期の助産診断と支援(24回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1~6回	産褥期の助産診断	産褥期の経過、産褥期の助産診断
第7~9回	産褥期の支援	産褥期のケア
第 10~12 回	事例展開	産褥期の助産過程の事例展開
第13~15回	産褥期の支援	産後一ヶ月までの家庭訪問
第16~18回	産褥期の支援	乳房ケア
第 19~24 回	産褥期の支援	家族計画に関する支援

#### 2. 新生児の助産診断と支援(11回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1~3回	新生児期の助産診断	新生児の特徴
第 4~5 回	新生児期の助産診断	新生児期の助産診断
第6~8回	新生児期のケア	出生後 24 時間以内のケアとその後のケア
第9~11回	事例展開	新生児期の助産過程の事例展開

# 3. 産褥期の異常 (4回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1~4回	産褥期の異常	産褥期の異常

# 4. 女性のライフサイクル (6回)

回数	項目	内容 (キーワード等)
第1~6回	女性のライフサイクル	思春期にある人の助産診断とケア
		成熟期にある人の助産診断とケア
		更年期にある人の助産診断とケア
		健康問題を抱えた人の助産診断とケア

区分名: 急性期にある人の看護学実習

科目名 (英語名称含む): (Adult Nursing (Acute) Practicum)

教員名: 脇屋友美子 佐藤菜保子 菅野久美 片桐和子 開講年次: 3 年次, 学 期: 2020 年度 後期 , 必修

授業形態:講義演習実習 , 単位数:2 単位 , 時間数:90 時間

概要:急性期にある成人から老年期の人を対象とし、主に周術期における看護展開について 実習を通して学ぶ。実習に臨んでは、既習の科目を振り返り、対象の看護を実践するにあた り必要な知識および技術を復習・確認する。

実習目的;健康障害をもち、手術療法を受ける人やその家族を多面的に理解し、患者とその家族との人間関係を基盤に、問題解決の系統的アプローチを通して、手術侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を実践する能力を養う。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

- 1. 手術療法に関するストレス・危機状態にある患者・家族を擁護し、回復に向けた患者・ 家族の意思決定を支えることができる。
- 2. 手術や麻酔侵襲による対象の病態生理的変化を理解し、身体的苦痛の緩和や合併症を予防し、早期回復するための援助ができる。
- 3. 手術療法によって変化した身体の形態・機能、それに伴う生活の変化を理解し、生活能力の獲得のために保健医療チームと共同して社会資源の活用についての援助ができる。
- 4. 患者の健康の保持増進をめざして、保健医療チームの一員としての働きかけができる。
- 5. 患者・家族との適切な人間関係を築くことができる。
- 6. 目的意識を持って実習を行い、自己学習能力を養い、根拠のある看護実践ができる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム					科目達成レベル		
	1. プロフェッショナル						
看護専	看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、						
行動で	行動できる。						
1) 丢粪冷珊			生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ	0	看護実践の場		
1)	看護倫理	(1)	れに基づき、考え、行動できる。	9	で看護職とし		

4)	法令等の規 範遵守	去令等の規	り、人々のプライバシーを尊重できる。		で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要	
3)	対人関係	① ①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守	0	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。 看護実践の場	
2)	習慣・服 装・品位/ 礼儀	① ② ③	ことができる。  状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。  時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。  自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	©	単位認定の要件である。 看護実践の場で看護職とでの態度、個値観をである。 情報をである。 である。	
		2	生命の尊厳や人権について理解し、人々の 意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる ことができる。			

				_	
			独立自尊の気風を養い、自己管理・自己		が単位認定
		3	評価を行い、自身で責任を持って考え、		の要件であ
			行動できる。		る。
			自らのキャリアをデザインし, 自己主導		
			型学習(自身の疑問や知識・技能不足を		
		4	認識し、自ら必要な学習)により、常に		
			自己の向上を図ることができる。		
			3. 人間関係の理解とコミュニケーション		
自己を	<u>.</u> :内省する力を	養う	とともに、他者とのコミュニケーションを通	 して、他	者を理解し、
互いの	立場を尊重し	たよ	りよい人間関係を築くことができる。		
			人々の生命、健康、生活について幅広い関		看護実践の
		1	心を持ち、深く洞察することができる。		場で看護職
	看護を必要		人々の社会的背景を理解して尊重するこ		としての態
	とする人々	2	とができる。		度、習慣、
1)	とのコミュ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ	<b>(</b>	価値観を示
	ニケーショ	3	ケーションスキルを身につけ、実践でき		せることが
	ン		る。		単位認定の
			望ましい健康行動がとれるよう人々の意		要件であ
		(4)	思決定を支援することができる。		る。
			人々の健康を支えるチームの一員に看護		
		1	の立場から参加し、他職種と協働できる。		<b>子</b> ####
			チーム医療におけるリーダーシップの意		看護実践の
		2	義と看護専門職者が果たす役割について		場で看護職
	エ. 1 での		理解することができる。		としての態
o )	チームでの		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信		度、習慣、
2)	コミュニケ	(3)	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての	0	価値観を示
	ーション	(J)	責任を果たす重要性を理解することがで		せることが
	1	1	1		

# 4. 知識とその応用

重要性を理解することができる。

人々に必要な看護が継続されるよう、医療

チームメンバーに適切に情報を提供する

きる。

4

単位認定の

要件であ

る。

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)			
	豊かな感性と倫理観を	1	感性を高める科目		実践の基	
		2	倫理性を高める科目		盤となる知 識を示せる	
1)	もつ看護専 門職者	3	論理的思考能力を高める科目		ことが単位 認定の要件	
		4	表現力を培う科目		である。	
		1	社会の理解を深める科目			
	会心生を出 曲 ふ、	2	人間の理解を深める科目		実践の基盤となる知識を示せることが単位認	
2)	創造性豊かな看護専門職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	•		
		4	看護の基本となる科目		定の要件で ある。	
		(5)	看護実践の基盤となる科目			
	ニーズに対 応する実践 能力を備え た看護専門 職者	1	看護実践の応用となる科目	0	看護の場に 知識を応用	
3)		2	看護の実践		できること が単位認定	
		3	看護を統合する科目		の要件である。	
			5. 看護の実践			
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護 を実践することができる。						
1)	人々のニー ズに基づい	1)	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。	- ⊚	看護の一部 として実践 できること	
1)	た看護の実践	2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		が単位認定 の要件である。	

	人々の健康に関するニーズを明らかにす
3	るために、必要な情報を収集し、アセスメ
	ントすることができる。
	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計
4	画することができる。
	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健
(5)	康段階に応じた看護を実践できる。
	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の
6	専門職と協働して、人々がその健康問題を
	解決することを支援することができる。
(7)	看護実践を評価し、計画の修正を図ること
	ができる。
	地域の人々の健康問題の解決のために、既
	存の社会資源の改善や新たな社会資源の
8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー
	ビスのネットワーク化、システム化の重要
	性を説明できる。

# 6. 地域社会への貢献

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	1)	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状 況を理解し、人々が抱える健康問題と関連 する要因や生活背景について説明できる。	^	修得の機会 があるが、
		2	→ 人々とともに、安心して生活できる地域づ ② くりを考え、そのために協働する看護専門 職者の役割について説明できる。		単位認定に関係ない
2)	福島の災害から学ぶ	1)	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。		修得の機会
		2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的 に学び、適切に説明できる。	_	がない
		3	放射線(および災害)に対する地域住民の 不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		

	ク: る。	コミュニ	ニケーションについて説明でき					
	7. 看護学発展への貢献							
	看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。							
		1)	看護実践を通して、看護学上の 課題を考えることができる。		修得の機会			
1)	1) 科学的・論理的思考		科学的思考に基づいて看護学 上の課題を解決することの重 要性を説明できる。	$\triangle$	があるが、 単位認定に 関係ない			

テキスト:適宜提示・紹介する。

参考書:適宜提示・紹介する。

成績評価方法:急性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。

その他(メッセージ等): 急性期にある人の看護学実習では、周術期にある患者を受け持ちます。周術期にある患者は、日々・時間ごとの状態変化が速い・大きいという特徴があります。実習目的に関連した授業内容についてしっかり復習を行い、実習に臨みましょう。実習は臨地で生の現実での学びであるため、また、易感染状態の患者様と関わるため学生自身の体調管理が重要となります。

#### 授業内容(学習項目)

手術を受ける患者を 1~2 名受け持ち、周術期看護の看護過程を展開する 詳細は急性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。 区分名: 看護の実践

科目名 (英語名称含む):慢性疾患をもつ人への看護学実習 (Adult Nursing

(Chronic) Practicum)

教員名: 井上水絵,横山郁美,他

開講年次:3年次,学 期:2020年度 後期 ,必修/選択:必修

授業形態:実習 , 単位数:2 単位 , 時間数:90 時間

概要:長期にわたる疾病管理が必要で、治癒することが困難な慢性疾患及び機能障害を持つ、成人期または老年期にある患者と家族に対し、慢性疾患の特徴を理解し、全体像をとらえ、 看護上の問題点および必要な看護支援を修得する。看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

実習目的:慢性的な健康問題を持つ患者の、身体的、精神的、社会的な影響を理解し、生涯にわたって必要となるセルフマネジメントの獲得を支援し、生活の再構築し、QOLの維持・向上を計るために必要な看護に関する知識と実践能力を修得する。

#### 実習目標:

- 1. 慢性疾患を持つ患者と家族の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的側面を多面的にとらえ全体像を把握し、看護上の問題点を述べることができる。
- 2. 慢性疾患の病態、検査、治療経過について理解し、疾病や障害をコントロールするため に必要な看護支援(セルフケア能力維持・向上、指導、合併症予防)について考えるこ とができる。
- 3. 慢性疾患をもつ患者とその家族へ必要な看護支援の実際を理解し、到達目標を明確に し、看護過程の計画・実践・評価をすることができる。
- 4. 慢性疾患・機能障害をもつ患者の治療や生活支援に関わる保健医療チームの役割と必要な社会資源を理解し、連携のありかたについて学ぶことができる。
- 5. 慢性疾患における看護実践を通じて自己の行動を振り返り、看護者としてのあり方や 看護観について学ぶことができる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

# 学習アウトカム 科目達成レベル

1. プロフェッショナル

看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、 行動できる。

1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	0	看護実践の場で看護職者としての態度、 習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服 装・品位/ 礼儀	① ② ③	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	©	同上
3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。	©	同上
4)	法令等の規 範遵守	① ②	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	0	同上
			2. 生涯学習		
			た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び 論理的思考の継続的改善を行うことができる		広い分野の科学
		① ②	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。 看護学に関する情報を、目的に合わせて 効率的に入手することができる。		基盤となる態度、習
1)	自己啓発と 自己鍛錬	3	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 評価を行い、自身で責任を持って考え、 行動できる。	$\circ$	版及、自 慣、スキル を示せるこ とが単位認
		4	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習(自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。		定の要件である
		;	3. 人間関係の理解とコミュニケーション		

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

	71 - 1				
		1	人々の生命、健康、生活について幅広い関 心を持ち、深く洞察することができる。		
	看護を必要とする人々	2	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		看護の一部として実践
1)	とのコミュ ニケーショ ン	3	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	©	できること が単位認定 の要件であ
		4	望ましい健康行動がとれるよう人々の意 思決定を支援することができる。		る
2)	チームでのコミュニケーション	1	人々の健康を支えるチームの一員に看護 の立場から参加し、他職種と協働できる。		
		2	チーム医療におけるリーダーシップの意 義と看護専門職者が果たす役割について 理解することができる。		看護の一部 として実践
		3	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての 責任を果たす重要性を理解することがで きる。	©	できること が単位認定 の要件であ
		4	人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。		

# 4. 知識とその応用

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性 と倫理観を もつ看護専 門職者	1	感性を高める科目		実践の基盤 となる知識
		2	倫理性を高める科目	•	を示せることが単位認
		3	論理的思考能力を高める科目		定の要件で ある。

				]	
		4	表現力を培う科目		
		1	社会の理解を深める科目		
	\$4044 Id. ## >	2	人間の理解を深める科目		実践の基盤となる知識
2)	創造性豊かな看護専門	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	•	を示せることが単位認
	職者	4	看護の基本となる科目		定の要件である。
		(5)	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対 応する実践 3) 能力を備え た看護専門 職者	1	看護実践の応用となる科目		看護の場に 知識を応用
3)		2	看護の実践	©	できること が単位認定
				看護を統合する科目	
			5. 看護の実践		
人々が	生活するあら	ゆる	場において、あらゆる健康レベルの人々のこ	ニーズに碁	基づいた看護
を実践	することがで	きる	0		
		1	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。		
	人々のニー	2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		看護の一部 として実践
1)	ズに基づい た看護の実 践	3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	<b>○</b>	できること が単位認定 の要件であ
		4	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		る
	(5)		安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		

	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の	1	
6	専門職と協働して、人々がその健康問題を		
	解決することを支援することができる。		
(7)	看護実践を評価し、計画の修正を図ること		
	ができる。		
	地域の人々の健康問題の解決のために、既		
	存の社会資源の改善や新たな社会資源の		
8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー		
	ビスのネットワーク化、システム化の重要		
	性を説明できる。		

# 6. 地域社会への貢献

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1164 A 1 3		地域の特性やそこで暮らす人々の生活状			
	地域の人々	1	況を理解し、人々が抱える健康問題と関連		修得の機会
1)	∞域の人々の生命と暮		する要因や生活背景について説明できる。	^	があるが、
1)	らしを守る		人々とともに、安心して生活できる地域づ	Δ	単位認定に
	りしてする	2	くりを考え、そのために協働する看護専門		関係ない
			職者の役割について説明できる。		
			福島でおこった大規模複合災害を学び、必		
		1	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす		
			る各種連携の実際を理解し、説明できる。		
	福島の災害	2	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的		修得の機会
2)	から学ぶ	<b>3</b>	に学び、適切に説明できる。	_	がない
	かり子か		放射線(および災害)に対する地域住民の		N 1 1 1
		<u></u>	不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		
		3	クコミュニケーションについて説明でき		
			る。		

# 7. 看護学発展への貢献

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決する ことの重要性を理解できる。

	科学的・論理的思考	1	看護実践を通して、看護学上の 課題を考えることができる。		修得の機会
1)		2	科学的思考に基づいて看護学 上の課題を解決することの重	Δ	があるが、単位認定に
			要性を説明できる。		関係ない

テキスト: 特に指定しない 参考書: 特に指定しない

成績評価方法: 慢性期にある人の看護学実習要項を参照のこと。

その他(メッセージ等): 健康レベル、ADLのセルフケア能力、疾患など、多用で疾病のコントロールのために入院して療養生活を送る成人期もしくは老年期にある人を対象として、看護実習を展開します。患者様およびその家族が病みの軌跡と共に生活する過去、現在、未来を把握し、その人を包括的にとらえ、必要な看護支援を見出す実習になります。熟考しながら進める実習になりますので、心身ともに学習準備をして臨んでください。

区分名:看護の実践

科目名 (英語名称含む): 母性看護学実習 (Maternity Nursing: Practicum)

教員名:篠原好江、他

開講年次: 3年次, 学 期: 2020年度 後期 , 必修/選択: 必修 授業形態: 講義演習実習 , 単位数: 2.0 単位 , 時間数: 90 時間

#### 概要:

母性看護の理念をふまえ、マタニティサイクル(妊娠・分娩・産褥・新生児の各期)にある 女性とその家族に対するケアが実践できるための基礎的能力を養う。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目。

## 学習目標:

- (1) 妊娠・分娩・産褥期及び胎児・新生児期の経過を関連づけて理解する。
- (2) 対象への関わりを通して対象が体験していることを理解する。
- (3) 対象の主体性を尊重したケアを実践する。
- (4) 家族メンバーの誕生がもつ意義を理解する。
- (5) 母子や家族をとりまく環境を理解する。
- (6) 対象の多様な価値観を理解する。
- (7) 必要なサポートシステムについて考える。
- (8) 母子ケアを行う際の倫理的課題について考える。
- (9) 母子保健チームにおける看護者の役割を理解する。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

		科目達成レベル							
	1. プロフェッショナル								
看護専	看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、								
行動で	きる。								
		(1)	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ		看護実践の場				
		1)	れに基づき、考え、行動できる。		で看護職者と				
		f護倫理 ②			しての態度、				
1)	看護倫理		生命の尊厳や人権について理解し、人々の	0	習慣、価値感				
			意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる		を示せること				
			ことができる。		が単位認定の				
					要件である				

		1	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣 い、態度をとることができる。						
習慣・服		時間を厳守し、何事においても真摯に対応							
2)	装・品位/	2	  し、積極性や誠実性を示すことができる。	0	IJ				
	礼儀		自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す						
		3	ことができる。						
3)	対人関係	(1)	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬	0	IJ				
3)	刈八医床	1)	意を払って接することができる。	0	"				
		(1)	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守						
4)	法令等の規	1	り、人々のプライバシーを尊重できる。	(i)	<i>II</i>				
4)	範遵守	2	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守		,,				
			することができる。						
	2. 生涯学習								
看護専	門職者として	優れ	た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関	関連の原	広い分野の科学				
的情報	を収集・評価	し、	論理的思考の継続的改善を行うことができる	) <sub>o</sub>					
		1	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献						
			することの重要性を理解できる。						
		2	看護学に関する情報を、目的に合わせて						
			効率的に入手することができる。		実践できる				
	   自己啓発と		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己		ことが単位				
1)	自己鉛錬	3	評価を行い、自身で責任を持って考え、	•	認定の要件				
			行動できる。		である				
			自らのキャリアをデザインし、自己主導						
		4	型学習(自身の疑問や知識・技能不足を						
		4)	認識し、自ら必要な学習)により、常に						
			自己の向上を図ることができる。						
	3. 人間関係の理解とコミュニケーション								
自己を	内省する力を	養う	とともに、他者とのコミュニケーションを通	iして、	他者を理解し、				
互いの	立場を尊重し	たよ	りよい人間関係を築くことができる。						
	看護を必要	(1)	人々の生命、健康、生活について幅広い関		基礎とな				
1)	1 世で必安 とする人々	1)	心を持ち、深く洞察することができる。		る態度、ス				
1)	とのコミュ	2	人々の社会的背景を理解して尊重するこ		キルを示せ				
	しいコミユ		とができる。		ることが単				

	ニケーショ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ		位認定の要
	ン	3	ケーションスキルを身につけ、実践でき		件である
			る。		
		(4)	望ましい健康行動がとれるよう人々の意		
		4)	思決定を支援することができる。		
		(1)	人々の健康を支えるチームの一員に看護		
		1)	の立場から参加し、他職種と協働できる。		
	チームでの		チーム医療におけるリーダーシップの意		
		2	義と看護専門職者が果たす役割について		
			理解することができる。		修得の機会
2)	コミュニケ		チームメンバーに対して、尊敬、共感、信	Δ	があるが、
۷)	ーション	(3)	頼、誠実さを示し、看護専門職者としての		単位認定に
		0	責任を果たす重要性を理解することがで		関係ない
			きる。		
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療		
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する		
			重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)			
	豊かな感性 と倫理観を もつ看護専 門職者	1	感性を高める科目		模擬的な	
1)		2	倫理性を高める科目		場に知識を 応用できる	
9		(	3	論理的思考能力を高める科目		ことが単位 認定の要件
		4	表現力を培う科目		である	
2)	創造性豊か な看護専門 職者	1	社会の理解を深める科目	0	模擬的な場 に知識を応	
		2	人間の理解を深める科目		用できるこ とが単位認	

		3	人間の身体機能と病態を理解する科目		定の要件である
		4	看護の基本となる科目		
		5	看護実践の基盤となる科目		
	ニーズに対応する実践	1	看護実践の応用となる科目		模擬的な場 に知識を応
3)	心りる美感 能力を備え た看護専門	2	看護の実践	0	用できるこ とが単位認
	職者	3	看護を統合する科目		定の要件で ある
			5. 看護の実践		
	i生活するあら することがで		場において、あらゆる健康レベルの人々のこ。	ニーズに碁	<b>基づいた看護</b>
		1)	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。		
		2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
1)	人々のニー ズに基づい	3	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	(i)	看護の一部 として実践 できること
1)	た看護の実践	4	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	0	が単位認定 の要件であ
		(5)	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		る
		6	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		7	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		

			地填	或の人	マの健康問題の解決のために、既		
			存の	の社会	資源の改善や新たな社会資源の		
		8	開多	巻、フォ	ーマル・インフォーマルなサー		
			ビン	スのネ	ットワーク化、システム化の重要		
			性を	を説明で	できる。		
				6	. 地域社会への貢献		
(1)	地域の特性を	理解〕	し、ノ	しゃが作	主み慣れた地域や家庭で安心して	生活でき	 るよう、看護
専門職	践者としての役	割を	果た	すこと	ができる。		
(2)	福島での大規	模複氮	<b>合災</b> 領	害から、	、災害時に必要となる種々の連携	について	学び、説明で
きる。							
			地址	或の特	生やそこで暮らす人々の生活状		
	地域の人々	1	況を	を理解し	し、人々が抱える健康問題と関連		修得の機会
1)	の生命と暮		する	る要因	や生活背景について説明できる。	$\wedge$	があるが単
1)	らしを守る		人人	マとと	もに、安心して生活できる地域づ		位認定に関
	00412	2	くりを考え、そのために協働する看護専門				係ない
			職者	皆の役割	削について説明できる。		
			福島	島でおる	こった大規模複合災害を学び、必		
		1	要想	要な医療・福祉・保健・行政をはじめとす			
			る名	る各種連携の実際を理解し、説明できる。			
	福島の災害	(2)	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的				修得の機
2)	から学ぶ	(2)	に賞	に学び、適切に説明できる。			会がない
	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		放身	寸線(お	および災害) に対する地域住民の		7 / 4
		3	不多	とが 理角	解でき、社会・地域住民とのリス		
			クニ	クコミュニケーションについて説明でき			
			る。				
				7.	看護学発展への貢献		
看護学	対領域での研究	の意	義や	、科学	的・論理的思考に基づいて看護	学上の課題	<b>夏を解決する</b>
ことの	)重要性を理解	でき	る。				
					看護実践を通して、看護学上の		±Π /τ 1 → 1 → 1
				1	課題を考えることができる。		理解と計画
1)	科学的・論理	科学的・論理的思考			科学的思考に基づいて看護学	0	立案が単位
					   上の課題を解決することの重		認定の要件

テキスト: 母性看護学実習要項、配布資料

2

要性を説明できる。

上の課題を解決することの重

である

### 参考書:

成績評価方法:実習評価表に基づき評価

その他 (メッセージ等):

実習中の援助を通して、学内の講義や演習等では得られない創造的な発見や多くの感動を体験し、生命の誕生に立会い家族の新しい一員を迎えるプロセスに関わることは、一人の人間としても貴重な体験になる。この体験が自己の母性・父性の性徴につながることも期待する。

## 授業内容(学習項目)

臨地実習:県内3~4施設において実習をする。(10月~2021年1月)

- (1) 産褥早期の母子を受け持ち母子のケアを実践する。
- (2) 出生直後の児のケアを見学実習する。
- (3) 妊婦健診の関わりを通して妊娠期のケアを見学実習する。
- (4) 母親学級や小集団指導などの保健指導を見学実習する。
- (5)機会があれば分娩期のケアを見学実習する。
- (6)機会があれば退院後の産褥期・新生児期の健康診査及を見学実習する。

区分名:看護の実践

科目名(英語名称含む): 健康障害をもつ子どもの看護学実習(Child Health Nursing Practice)

教員名:和田久美子, 古溝陽子, 鈴木学爾, 女池朝子, 金澤久美

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度後期, 必修/選択: 必修

授業形態:実習 , 単位数:2単位 , 時間数:90時間

概要:健康障害を持つ子どもとその家族のアセスメントの実際について学習するととも に、それに基づいてケアの計画を立案し、子どもとその家族に対して必要な看護援助を行 う。

後日、詳細を提示する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

- 1. 対象とする子どもや家族に対し、看護者としての積極的な関心をよせながら、対象者との相互作用を通して、対象を深く理解する。
- 2. 看護の一連のプロセスを踏む中で、子どもとその家族に対して援助を行う。
- 3. 健康障害をもつ子どもとその家族の現状を理解し、小児看護の役割を考える。
- 4. 看護専門職者としての、自己のあり方を考える。

## 学習アウトカムと科目達成レベル表

		科	目達成レベル					
	1. プロフェッショナル							
看護専	看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、							
行動で	きる。							
		1	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、そ		看護実践の場			
			れに基づき、考え、行動できる。		で看護職とし			
1)	看護倫理		生命の尊厳や人権について理解し、人々の	0	ての態度、習			
		2	意思決定を支え、擁護に向けた行動をとる	İ	慣、価値観を			
			ことができる。		示せることが			

					単位認定の要件である		
					11 (8)		
		1	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣 い、態度をとることができる。		看護実践の場 で看護職とし		
2)	習慣・服 装・品位/	2	時間を厳守し、何事においても真摯に対応 し、積極性や誠実性を示すことができる。	0	ての態度、習 慣、価値観を		
	礼儀	3	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正す ことができる。		示せることが 単位認定の要 件である		
3)	対人関係	1)	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。	0	看護としての態度、習慣、価値観を示せることが 単位認定の要件である		
	法令等の規	個人情報の取扱いに注意し、守私 り、人々のプライバシーを尊重			看護実践の場 で看護職とし ての態度、習		
4)	範遵守	2	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守 することができる。	0	慣、価値観を 示せることが 単位認定の要 件である		
			2. 生涯学習				
1	, . , , .		た洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び 論理的思考の継続的改善を行うことができる		広い分野の科学		
		1)	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 することの重要性を理解できる。		看護実践の 場で看護職		
1)	自己啓発と 自己部錬	2	看護学に関する情報を、目的に合わせて 効率的に入手することができる。	0	をしての態度、習慣、		
	目己鍛錬	自己鍛錬		3		独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 評価を行い、自身で責任を持って考え、 行動できる。	

自らのキャリアをデザインし、自己主導 型やである   型学習(自身の疑問や知識・技能不足を 認識し、自ら必要な学習)により、常に 自己の向上を図ることができる。   3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。   4. 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。   人々の社会的背景を理解して尊重することができる。   人々の社会的背景を理解して尊重することができる。   一方できる。   一方である   一方であ											
(4) 認識し、自ら必要な学習)により、常に自己の向上を図ることができる。  3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 石護を必要とする人々とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、本を持ち、深く洞察することができる。 日)とのコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。 ② 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。 ④ 経験できる。 ④ 経験できる。 ④ 大々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。 チームと厥族におけるリーダーシップの意義としての態度、習慣、試験さることができる。  チームと療におけるリーダーシップの意義としての態度、習慣、試験さるとができる。  チームと要なにがさる。  チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての態度、習慣、価値観を示することができる。				自らのキャリアをデザインし, 自己主導		単位認定の					
記職し、自ら必要な学習)により、常に 自己の向上を図ることができる。   3. 人間関係の理解とコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。   4. 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。				型学習(自身の疑問や知識・技能不足を		要件である					
3. 人間関係の理解とコミュニケーション 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。			4)	認識し、自ら必要な学習)により、常に							
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				自己の向上を図ることができる。							
互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。       ① 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。 クーションスキルを身につけ、実践できる。 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。 の立場から参加し、他職種と協働できる。 チーム医療におけるリーダーシップの意義を看護専門職者が果たす役割について理解することができる。 チームと療におけるリーダーシップの意義で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることができる。 チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 投いできる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 関いできる。 人々に必要なる。 ターカスタンド・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース		3. 人間関係の理解とコミュニケーション									
互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。       ① 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。 クーションスキルを身につけ、実践できる。 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。 の立場から参加し、他職種と協働できる。 チーム医療におけるリーダーシップの意義を看護専門職者が果たす役割について理解することができる。 チームと療におけるリーダーシップの意義で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることができる。 チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 投いできる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 関いできる。 人々に必要なる。 ターカスタンド・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース	自己を	 内省する力を	 養う	とともに、他者とのコミュニケーションを通	して、他	 者を理解し、					
1	互いの	立場を尊重し	たよ	りよい人間関係を築くことができる。							
				人々の生命、健康、生活について幅広い関							
<ul> <li>看護を必要とする人々とができる。といできる。といできる。とのコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。</li></ul>			(1)	   心を持ち、深く洞察することができる。							
とする人々		看護を必要		人々の社会的背景を理解して尊重するこ							
1) とのコミュ		とする人々	(2)	とができる。		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
ニケーショ   ③	1)	とのコミュ		看護専門職者としてふさわしいコミュニ	©						
2)		ニケーショ	3	ケーションスキルを身につけ、実践でき							
② 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		ン		る。							
<ul> <li>思決定を支援することができる。         <ul> <li>小々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。</li></ul></li></ul>				望ましい健康行動がとれるよう人々の意							
① の立場から参加し、他職種と協働できる。			(4)	思決定を支援することができる。		件でめる					
2)				人々の健康を支えるチームの一員に看護							
2) 義と看護専門職者が果たす役割について 理解することができる。 チームメンバーに対して、尊敬、共感、信 頼、誠実さを示し、看護専門職者としての 責任を果たす重要性を理解することができる。 人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。 4. 知識とその応用 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照) 電護実践の 看護実践の			(1)	の立場から参加し、他職種と協働できる。							
2)       理解することができる。       としての態度、習慣、価値観を示す。         チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。       価値観を示せることが過少に必要な看護が継続されるよう、医療手ームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。       単位認定の要件である事件である事件である。         4. 知識とその応用       知識とその応用         看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。       以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)         事かな感性 の感性を高める科目       の				チーム医療におけるリーダーシップの意		看護実践の					
チームでのコミュニケーション       チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。       度、習慣、価値観を示せることができる。         人々に必要な看護が継続されるよう、医療手のよどができる。       サームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。         4. 知識とその応用         看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。         以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)         豊かな感性 ① 感性を高める科目			2	義と看護専門職者が果たす役割について		場で看護職					
2)       コミュニケーション       (3)       チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。       度、習慣、価値観を示せることができる。         (4)       大々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。       要件である事業の定用         (4)       知識とその応用         看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。         以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)       説明できる。(学部コースツリー参照)         豊かな感性       (1)       感性を高める科目				理解することができる。		としての態					
(回復報を示し、看護専門職者としての 責任を果たす重要性を理解することができる。				チームメンバーに対して、尊敬、共感、信		度、習慣、					
責任を果たす重要性を理解することができる。       せることが 単位認定の 要件である         人々に必要な看護が継続されるよう、医療 手ームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。       要件である         4. 知識とその応用       4. 知識とその応用         看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。       以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)         動かな感性 (1) 感性を高める科目       (⑤) 看護実践の	2)			頼、誠実さを示し、看護専門職者としての	0	価値観を示					
人々に必要な看護が継続されるよう、医療       要件である         4 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。       4. 知識とその応用         看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。       以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)         1) 豊かな感性       ① 感性を高める科目		ーション	(3)	責任を果たす重要性を理解することがで		せることが					
<ul> <li>④ チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。</li> <li>4. 知識とその応用</li> <li>看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。</li> <li>以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)</li> <li>動かな感性</li> <li>① 感性を高める科目</li> </ul>				きる。		単位認定の					
重要性を理解することができる。  4. 知識とその応用  看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。  以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)  1) 豊かな感性 ① 感性を高める科目 ◎ 看護実践の				人々に必要な看護が継続されるよう、医療		要件である					
4. 知識とその応用 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)  豊かな感性 ① 感性を高める科目			4	チームメンバーに適切に情報を提供する							
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				重要性を理解することができる。							
以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照) 豊かな感性 ① 感性を高める科目 ◎ 看護実践の			•	4. 知識とその応用							
説明できる。 (学部コースツリー参照) 豊かな感性 ① 感性を高める科目 ◎ 看護実践の	看護専	門職者の基盤	とな		の実践に	<u></u> 応用できる。					
説明できる。 (学部コースツリー参照) 豊かな感性 ① 感性を高める科目 ◎ 看護実践の				以下の科目の知識を修得し、学習内容を							
1)   □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □											
と倫理観を と倫理観を 場で看護職	1)	豊かな感性		成州を宣める利日	@	看護実践の					
	1)	と倫理観を	T)	窓圧と同める代日	9	場で看護職					

	もつ看護専 門職者	2	倫理性を高める科目		としての態度、習慣、価
	3		③ 論理的思考能力を高める科目		値観を示せ ることが単
		4	表現力を培う科目		位認定の要 件である
		1	① 社会の理解を深める科目		看護実践の
	創造性豊か	2	人間の理解を深める科目		場で看護職 としての態
2)	な看護専門	3	人間の身体機能と病態を理解する科目	©	度、習慣、価値観を示せ
	職者	4	看護の基本となる科目		ることが単 位認定の要
		5	看護実践の基盤となる科目		件である
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目		看護実践の 場で看護職
3)	応する実践 能力を備え た看護専門 職者 3	看護の実践	©	としての態度、習慣、価値観を示せ	
		職者		看護を統合する科目	
			5. 看護の実践		
	生活するあら することがで		場において、あらゆる健康レベルの人々のこ。	ニーズに碁	基づいた看護
1)	人々のニーズに基づい		人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。	0	看護実践の 場で看護職 としての態
1) た 践	た看護の実践	2	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		度、習慣、価 値観を示せ ることが単

	人々の健康に関するニーズを明らかにす	位認定の要
3	るために、必要な情報を収集し、アセスメ	件である
	ントすることができる。	
	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計	
4	画することができる。	
	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健	
(5)	康段階に応じた看護を実践できる。	
	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の	
6	専門職と協働して、人々がその健康問題を	
	解決することを支援することができる。	
	看護実践を評価し、計画の修正を図ること	
	ができる。	
	地域の人々の健康問題の解決のために、既	
	存の社会資源の改善や新たな社会資源の	
8	開発、フォーマル・インフォーマルなサー	
	ビスのネットワーク化、システム化の重要	
	性を説明できる。	

# 6. 地域社会への貢献

- (1)地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。
- (2)福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1) Ø	地域の人々	1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。		看護実践の 場で看護職 としての態 度、習慣、価
	の生命と暮らしを守る	2	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門 職者の役割について説明できる。	©	値観を示せ ることが単 位認定の要 件である
2)	福島の災害から学ぶ	1 2	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。	_	習得の機会がない

	3	不多	安が理角	および災害)に対する地域住民の 解でき、社会・地域住民とのリス ニケーションについて説明でき		
			7.	看護学発展への貢献		
	領域での研究の 重要性を理解で	的・論理的思考に基づいて看護等	学上の課題	<b>夏を解決する</b>		
				看護実践を通して、看護学上の 課題を考えることができる。	(	看護実践の 場で看護職 としての態 度、習慣、価
1)	科学的・論理的	刀思考	2	科学的思考に基づいて看護学 上の課題を解決することの重 要性を説明できる。	©	値観を示せることが単位認定の要

件である

テキスト:随時提示する。

参考書:随時提示する。

成績評価方法:実習への参加態度、実習記録およびレポートを総合して評価する。

その他(メッセージ等): 「成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護 I ・ II 」、「健康障害をもつ子どもの看護」など、小児のケアに関連する内容について復習して臨んで下さい。

区分名:看護の実践

科目名 (英語名称含む): 精神の健康障害をもつ人への看護学実習 (Nursing Practice for Psychiatric Patient)

教員名:佐藤利憲・田村達弥・吾妻陽子・大川貴子

開講年次: 3年次, 学期: 2020年度 後期, 必修/選択: 必修

授業形態: 実習 , 単位数: 2 単位 , 時間数: 90 時間

概要:精神の健康上の問題のために生活を行ううえで困難を抱えている人を対象に、セルフケアの視点からその人を包括的に捉え、その人のストレングスを活かし、リカバリーを目指す援助のあり方を検討する。また、精神の健康障害をもつ人と関わるプロセスを通して自分自身を見つめながら、その人への関心を持ち続け、関係を築いていくことを目指す。 看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

#### 学習目標:

- 1)精神の健康障害をもつ人と場をともにすることができる。
- 2) 精神の健康障害をもつ人との関わりの中で自分自身をみつめることができる。
- 3) 関わりの中で生じた精神の健康障害をもつ人の反応を捉えることができる。
- 4) 現在に至るまでのプロセスをふまえながら、精神の健康障害をもつ人を理解することができる。
- 5)精神の健康障害をもつ人の疾患について理解することができる。
- 6) 精神の健康障害をもつ人が自分の状況をどのように受け止めているのかを理解することができる。
- 7) 精神の健康障害をもつ人が自身の「これから」についてどのように思い描いているかを 知ろうとしながら関わることができる。
- 8) 精神の健康障害をもつ人のセルフケアについて、その人の力に焦点を当てながらアセスメントすることができる。
- 9) セルフケアのアセスメントに基づき、その人のストレングスを活かし、リカバリーを目指した援助を考えることができる。
- 10) 精神の健康障害をもつ人が地域で生活する上で必要となるサポートについて考えることができる。

		科	目達成レベル						
1. プロフェッショナル									
	看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、 行動できる。								
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	©	臨床の場で看 護師としての 態度、習慣、 価値観を示せ ることが単位 認定の要件で ある。				
2)	習慣・服 装・品位/ 礼儀	① ② ③	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	©	臨床の場で看 護師としての 態度、習慣、価 値観を示せる ことが単位認 定の要件であ る。				
3)	対人関係	1	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬 意を払って接することができる。	0	臨床の場で看 護師としての 態度、習慣、価 値観を示せる ことが単位認 定の要件であ る。				
4)	法令等の規 範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	0	臨床の場で看 護師としての 態度、習慣、価 値観を示せる ことが単位認 定の要件であ る。				
		1	2. 生涯学習		1				

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学 的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献 (1)することの重要性を理解できる。 看護学に関する情報を、目的に合わせて 基盤となる 2 効率的に入手することができる。 態度、習 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己 慣、スキル 自己啓発と 1) 評価を行い、自身で責任を持って考え、  $\bigcirc$ を示すこと 自己鍛錬 行動できる。 が単位認定 自らのキャリアをデザインし, 自己主導 の要件であ る。 型学習(自身の疑問や知識・技能不足を (4) 認識し、自ら必要な学習)により、常に 自己の向上を図ることができる。 3. 人間関係の理解とコミュニケーション 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、 互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。 人々の生命、健康、生活について幅広い関 (1)心を持ち、深く洞察することができる。 基盤となる 人々の社会的背景を理解して尊重するこ 看護を必要 態度、習慣、 とする人々 とができる。 スキルを示 看護専門職者としてふさわしいコミュニ 1) とのコミュ  $\bigcirc$ すことが単 ニケーショ ケーションスキルを身につけ、実践でき 位認定の要 る。 件である。 望ましい健康行動がとれるよう人々の意 (4) 思決定を支援することができる。 人々の健康を支えるチームの一員に看護 (1) の立場から参加し、他職種と協働できる。 基盤となる チーム医療におけるリーダーシップの意 熊度、習 チームでの 慣、スキル 義と看護専門職者が果たす役割について 2) コミュニケ 理解することができる。  $\bigcirc$ を示すこと チームメンバーに対して、尊敬、共感、信 ーション が単位認定 の要件であ 頼、誠実さを示し、看護専門職者としての (3) 責任を果たす重要性を理解することがで る。 きる。

ı		Ī		1	Ī			
			人々に必要な看護が継続されるよう、医療					
		4	チームメンバーに適切に情報を提供する					
			重要性を理解することができる。					
4. 知識とその応用								
看護専	門職者の基盤	とな	る知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護	の実践に	応用できる。			
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。 (学部コースツリー参照)					
		1	感性を高める科目					
1)	豊かな感性と倫理観を	2	倫理性を高める科目	_				
· • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	もつ看護専 門職者	3	論理的思考能力を高める科目					
		4	表現力を培う科目					
	創造性豊か	1	社会の理解を深める科目					
		2	人間の理解を深める科目					
2)	な看護専門職者	3	人間の身体機能と病態を理解する科目					
		4	看護の基本となる科目					
		5	看護実践の基盤となる科目					
	ニーズに対	1	看護実践の応用となる科目		実践の場で 問題解決に			
3)	応する実践 能力を備え	2	看護の実践	0	知識を応用 できること			
	た看護専門職者	3	看護を統合する科目		が単位認定 の要件であ る。			
			5. 看護の実践					

	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		場において、あらゆる健康レベルの人々のこ	ニーズに	基づいた看護
を実践 1)	ますることがで 人 ズ た 践 ことがで こうしょう こうしゅう ままま かいま しょう かいま しょう こうしゅう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょ	(a) (b) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c) (c	、人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要		模擬である。場では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学
			性を説明できる。 6. 地域社会への貢献		
(1)	地域の特性を	理解	し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して	<u></u> 生活でき	 るよう <u>看</u> 誰
専門職	者としての役	割を	と、人へか丘が頂がた地域、水炭(女心して 果たすことができる。 合災害から、災害時に必要となる種々の連携		
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	1	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状 況を理解し、人々が抱える健康問題と関連 する要因や生活背景について説明できる。	0	理解と計画 立案が単位

			人人	マとと	もに、安心して生活できる地域づ		認定の要件
		2	< 1	)を考;	え、そのために協働する看護専門		である
			職者	音の役割	削について説明できる。		
			福島	帯でおる	こった大規模複合災害を学び、必		
		1	要な	よ医療	・福祉・保健・行政をはじめとす		
			る名	<b> 季</b>	<b>携の実際を理解し、説明できる。</b>		
	福島の災害	(2)	放身	寸線災害	<b>害の実際を知り、放射線を科学的</b>		修得の機会
2)	一個局の火音 から学ぶ	4	に当	学び、i	適切に説明できる。	_	修行の機工
	かり子か	10子か	放身	寸線(お	泉(および災害) に対する地域住民の		N <sub>1</sub> 17 ( ,°
		(3)	不多	不安が理解でき、社会・地域住民とのリス			
		(3)	クニ	コミュ	ニケーションについて説明でき		
		る		る。			
				7.	看護学発展への貢献		
看護学	領域での研究	の意	義や	、科学	的・論理的思考に基づいて看護等	学上の課題	<b>夏を解決する</b>
ことの	重要性を理解	でき	る。				
					看護実践を通して、看護学上の		理解と計画
			1	課題を考えることができる。		立案ができ	
1)	1) 科学的・論理	里的思	考		科学的思考に基づいて看護学	0	ることが単
				2	上の課題を解決することの重		位認定の要
				要性を説明できる。		件である。	

テキスト:指定しない 参考書:指定しない

成績評価方法:実習での患者との関わり様子、カンファレンスでの発言内容、記録の内容、 および、目標に対する学生の自己評価を踏まえ、目標に対する到達度で評価する。

その他(メッセージ等): 対象に関心を向けながら関わり続けることで、皆さんの中に様々な疑問や気付きが生まれてきます。こうした、実習を通して皆さんが体験すること全てが学びの源泉です。対象と向き合うだけでなく、自己とも向き合いながら、学んでいきましょう。授業内容(学習項目): 実習初日は、精神障害者が利用している福祉施設にて実習を行い、地域で暮らす精神障害者を支える取り組みについて学習する。実習 2 日目より精神科の病棟にて1名の患者を受け持ち、患者に関心を向けながら関わるプロセスの中で、患者のリカバリーを視野に入れながらセルフケアについてアセスメントし、必要な援助について検討していく。実習最終日は、学内カンファレンスを行い、他の施設で実習を行なった学生と共に、学びを深めていく。